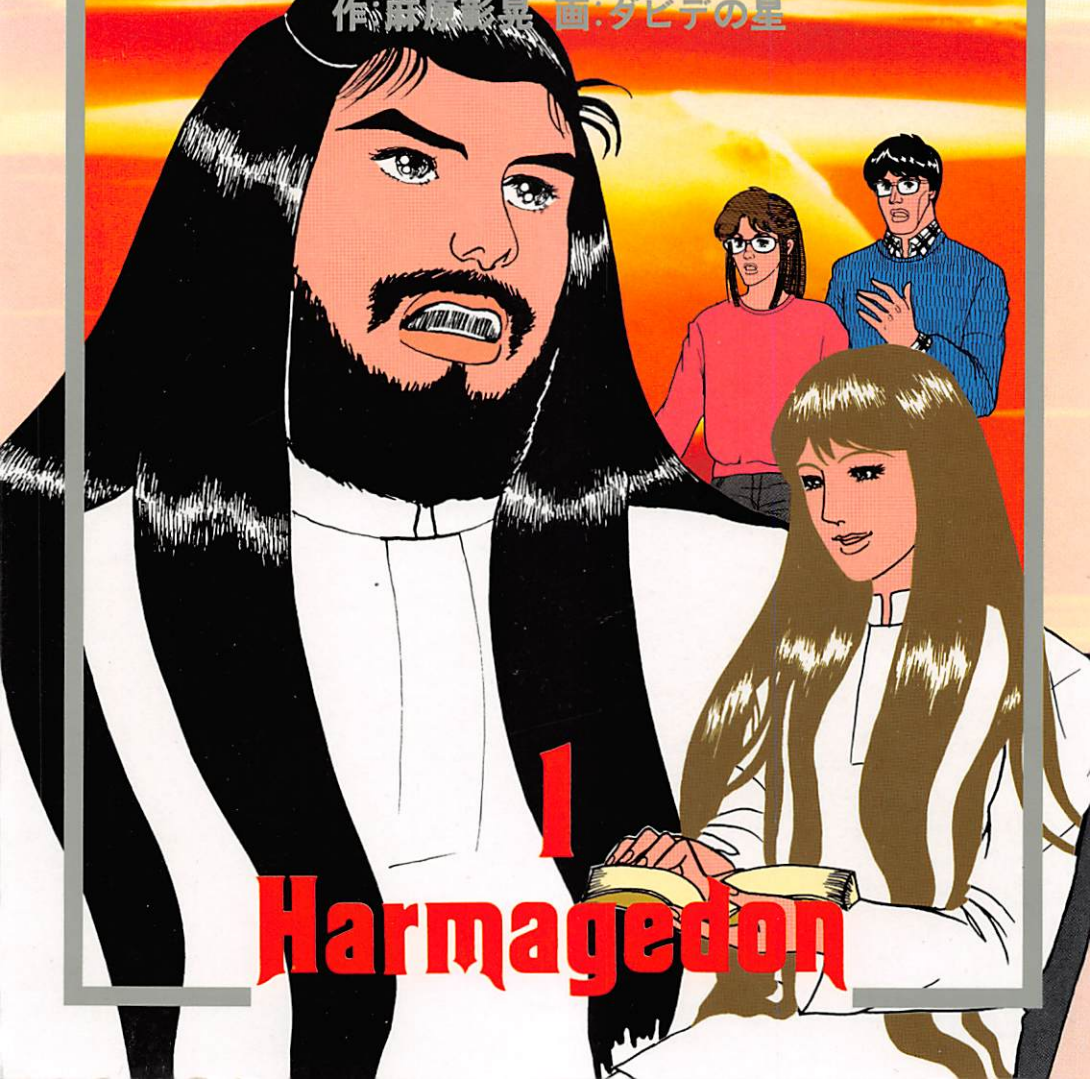
AUM COMICS

滅亡の日

麻原彰晃

「黙示録大預言」の秘密のベールを剝ぐ

作:麻原彰晃　画:ダビデの星



1

Harmagedon

AUM COMICS

滅亡の日

麻原彰晃

「黙示録大預言」の秘密のベールを剝ぐ

作：麻原彰晃　画：ダビデの星

1

Harmagedon

CONTENTS

第1章
時を超えたヨハネ
シヴァ神からの啓示
●14●

第2章
人の子のような者
現われたシヴァ神
●23●

第3章
封印を解く者
ダビデの若枝
●48●

第4章
黙示録の四騎士
解き明かされる真実
●87●

第5章
大いなる神の怒り
大噴火による洗礼
●140●

第6章
シャクティーパット
額に押された神の印
●172●

第7章
恐怖の神々の時代
避けられぬ滅亡の日
●207●

CHARACTER

●麻原彰晃尊師

日本でただ一人の最終解脱者。一九八六年、ヒマラヤで悟りを得て解脱を果たす。解脱者のみが持つ純粋観照智を駆使して『ヨハネの黙示録』を完璧に解き明かす。来るべき人類の滅亡をくい止めるべく、オウム真理教を主宰し、現在救済活動に当たっている。

●杉浦茂

オウム編集部のライター。『ヨハネの黙示録』をはじめ、ノストラダムスの『諸世紀』など、数多くの予言書について、豊富な知識を持つ。

●シヴァ神

オウム真理教の主宰神。絶対的な自由・幸福・歓喜を獲得している魂。

●アニャータ・ケイマ大師

麻原彰晃尊師の一番弟子。尊師の良き援助者として活躍。一九八八年、麻原尊師の指導により第三段階の成就、マハー・ムドラーの成就を果たす。直感力、分析智に優れている。

●松葉裕子

月刊書籍『マハーヤーナ』の編集長。多くの人々に真理の法を伝えるべく、救済活動に参加している。

●ヨハネ

イエス・キリストの十二使徒の一人。『新約聖書』に名高い「預言中の預言」といわれている『ヨハネの黙示録』を著わす。

●マンジュシュリー・ミトラ大師

科学から歴史に至るまで様々な分野に精通し、あらゆる知識を有している。尊師の良きアドバイザー。

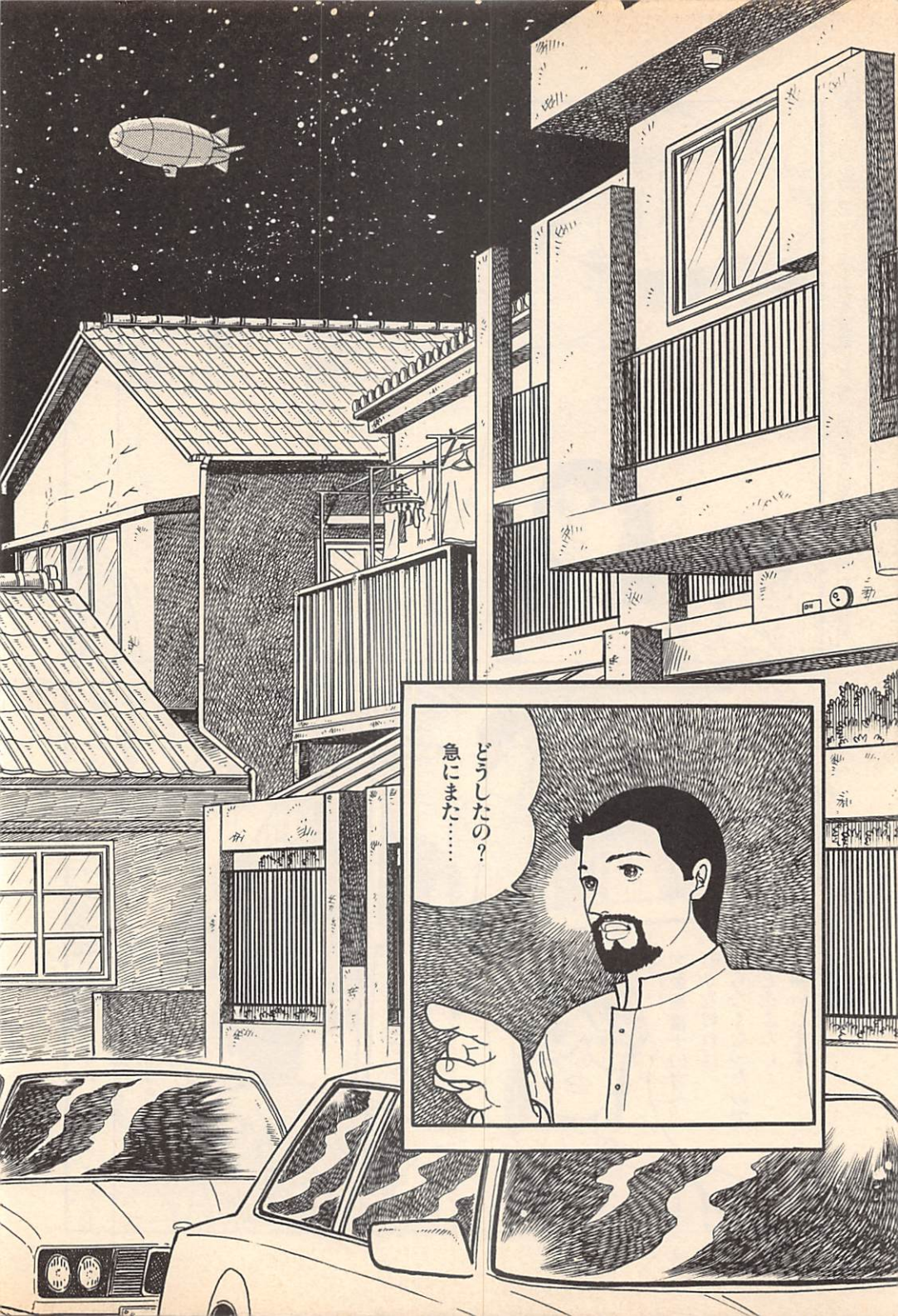
——これを聞いて
その中に書かれて
いることを
守る者たちとは、
さいわいである。
時が近づいている
からである。
（ヨハネの黙示録）
AIWA
CASIO

はい
オウムで
ございます

あっ
先生ですか
―ええ
え～っ
本当ですか!?

大乗ヨーガ経典

※大師……ウンダリニー・ヨーガを成就した者、またはその者に与えられる称号。三明六通という神通力を有する。


どうしたの？
急にまた……

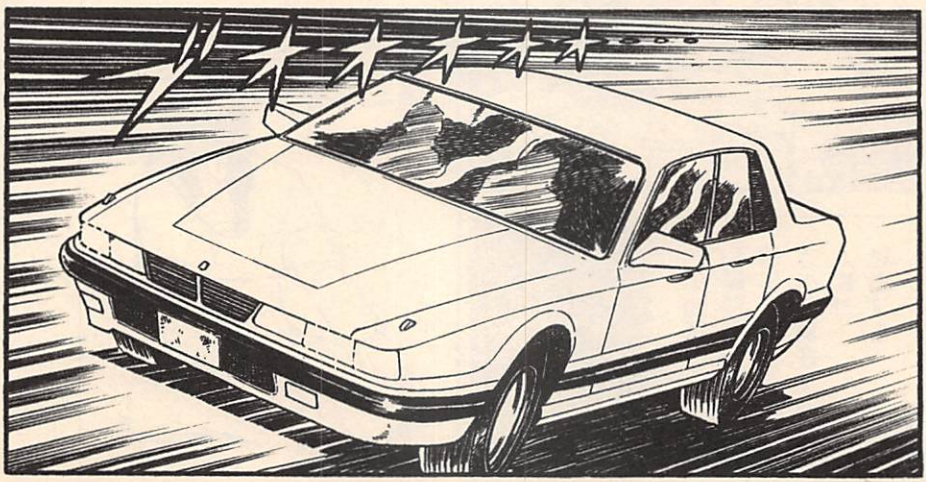
『ヨハネの黙示録』の
解読を始めるから
すぐに来い!!
という
先生命令が
出たんですよ

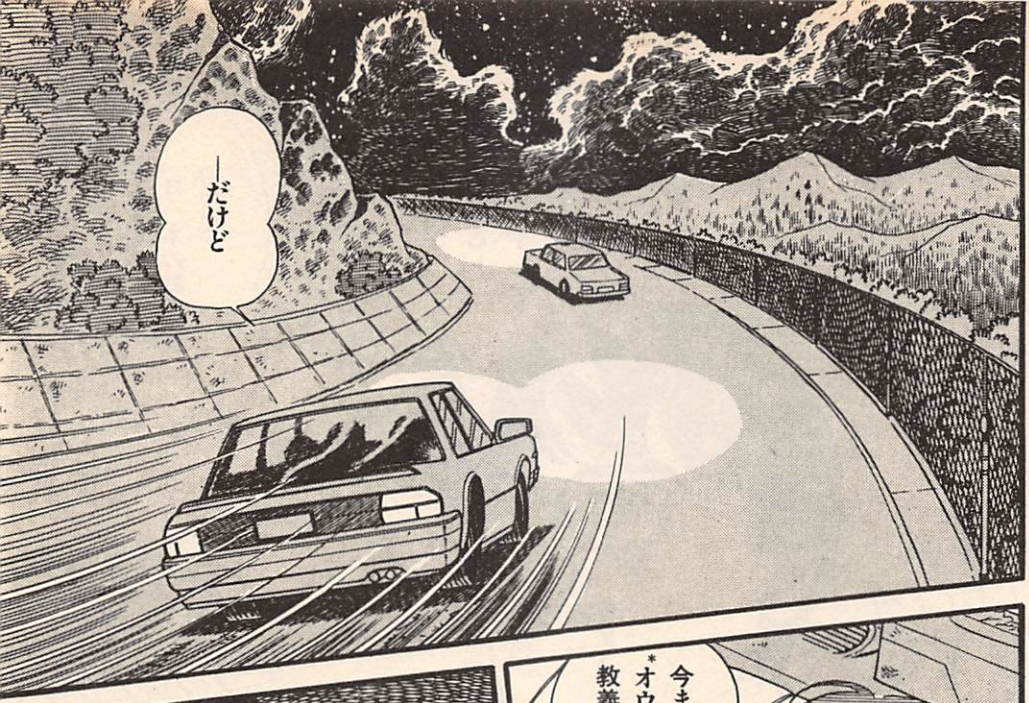
ハルマゲドン
滅亡の日
麻原彰晃『ヨハネの黙示録』の封印を解く!!
原作、麻原彰晃
作画、ダビデの星

今や『ヨハネの黙示録』を
解読すべき時が来た！
その
示唆を
受け取り
オウム真理教の
救済活動を
固めよ！

※グル……宗教上、修行上の指導者、師。

第1章　時を超えたヨハネ――シヴァ神からの啓示





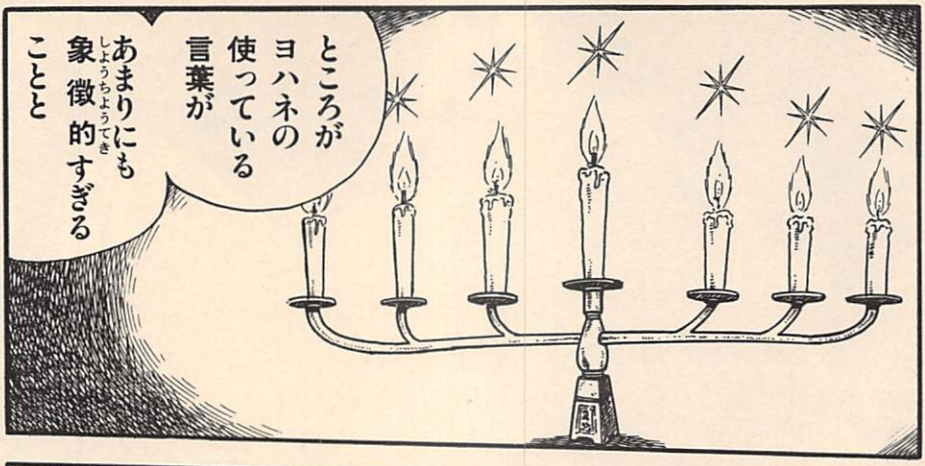
※オウム……麻原彰晃尊師が主宰する、救済のための団体。迫り来る人類破滅の危機を防ぎ、ひいてはすべての魂を絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の世界マハー・ニルヴァーナへ導くため活動している。

ところが その
『ヨハネの黙示録』
の中に
オウムのことが
何回も出てくると
先生はおっしゃって
いるんだ!!
オウムの
ことが!?

ヨハネは
西暦九五年頃
ローマ帝国の
ドミティアヌス帝に
よって
エーゲ海の
孤島
パトモス島に
流されるんだ

そこで突然
脱魂状態となって
神秘的で
恐ろしいヴィジョンを
見てしまう
——そして
その出来事を
後で書き
記した書が
『ヨハネの黙示録』
なんだ

この『新約聖書』の最後に含まれる『ヨハネの黙示録』は
人類の未来と世界の破滅が預言されているといわれ
古来より「聖書の奥義」「あらゆる預言の原典」「預言中の預言」などと呼ばれて数多くの研究がなされてきた

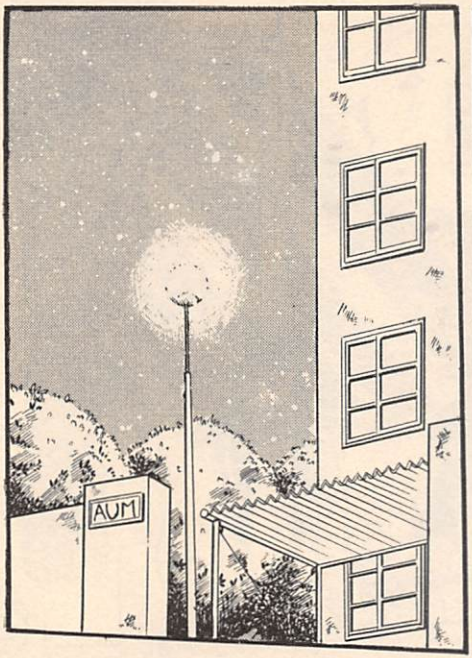

ところが
ヨハネの
使っている
言葉が
あまりにも
象徴的すぎる
ことと

それらの預言が
実現化する時期が
はっきりと
示されていない
ために
現代に至っても
難解な書物と
されている

まもなく
二十一世紀を
迎えようとしている
現在でも
なお数多くの人々の
強い関心を
集め続けている
この〝謎多き
古代の預言書〟を
完全に
解き明かした者は
今までだれも
いなかったのだ!!

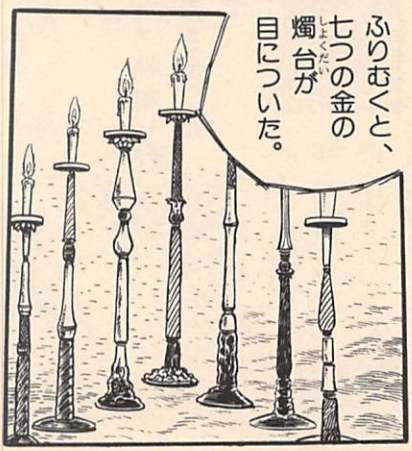
※アストラル・トリップ……肉体から意識が離れ、アストラル世界へと旅立つ現象のこと。
※アストラル……異次元世界。私達人間の住んでいる世界（現象界）の裏側にあるとされる。

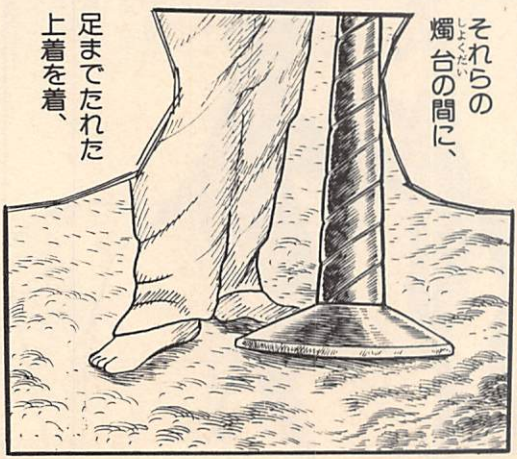
う〜ん
現代の仏陀
麻原彰晃
『黙示録』の
謎を解く
——か
こりゃあ
本にすれば
ベストセラーに
なるかも
しれないな
本にするのなら
『黙示録』の
封印を解く
——というのは
どうですか？
お！
そっちの
方が
カッコいいね
さっそく
先生に
お話しして
みよう



第2章　人の子のような者――現われたシヴァ神

え〜と
そう
この部分
だね


ふりむくと、
七つの金の
燭台が
目についた。


それらの
燭台の間に、
足までたれた
上着を着、

胸に
金の帯をしめている
人の子のような
者がいた。

そのかしらと
髪の毛とは、
雪のように
白い羊毛に似て
真白であり、

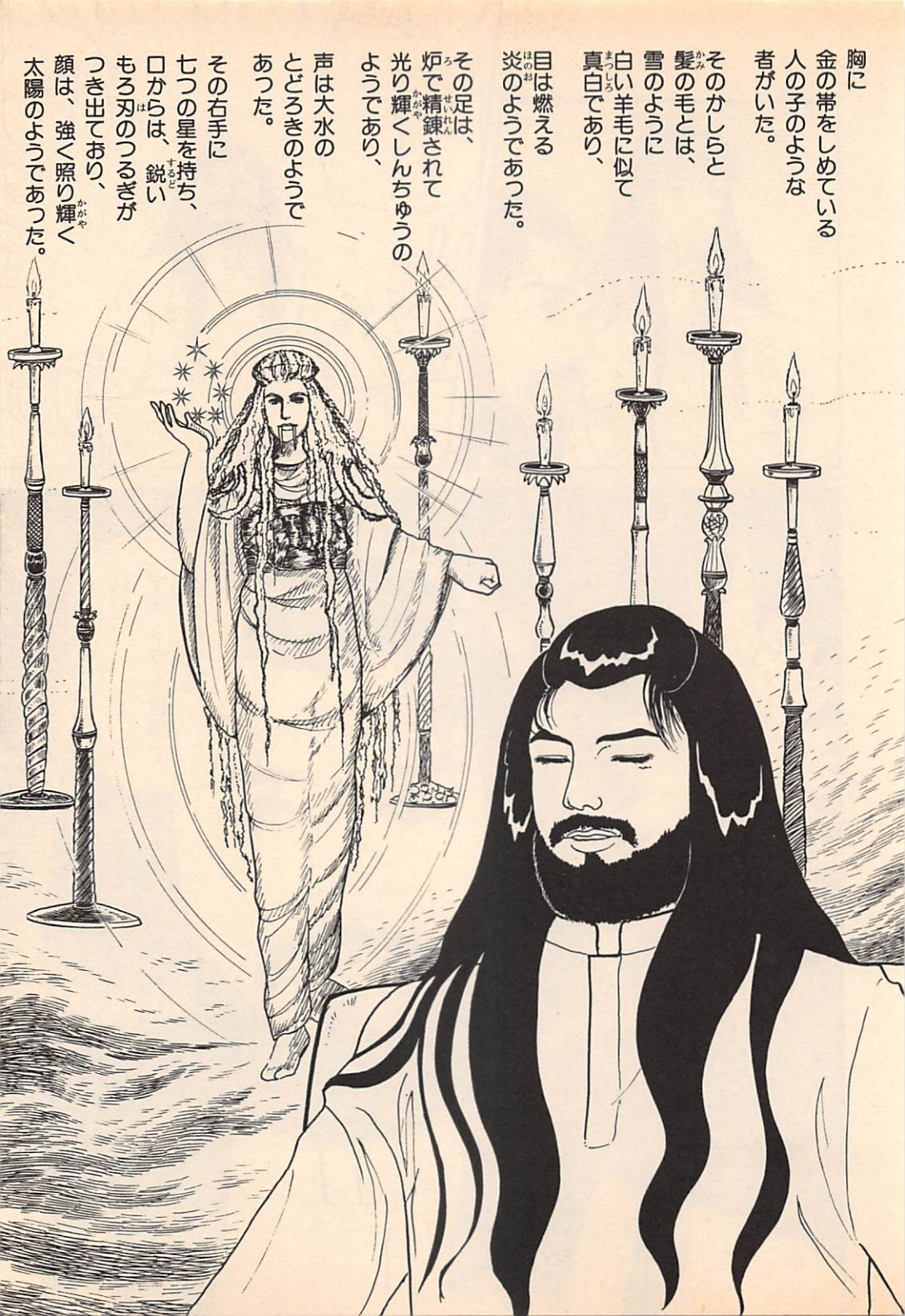
目は燃える
炎のようであった。

その足は、
炉で精錬されて
光り輝くしんちゅうの
ようであり、

声は大水の
とどろきのようで
あった。

その右手に
七つの星を持ち、
口からは、鋭い
もろ刃のつるぎが
つき出ており、

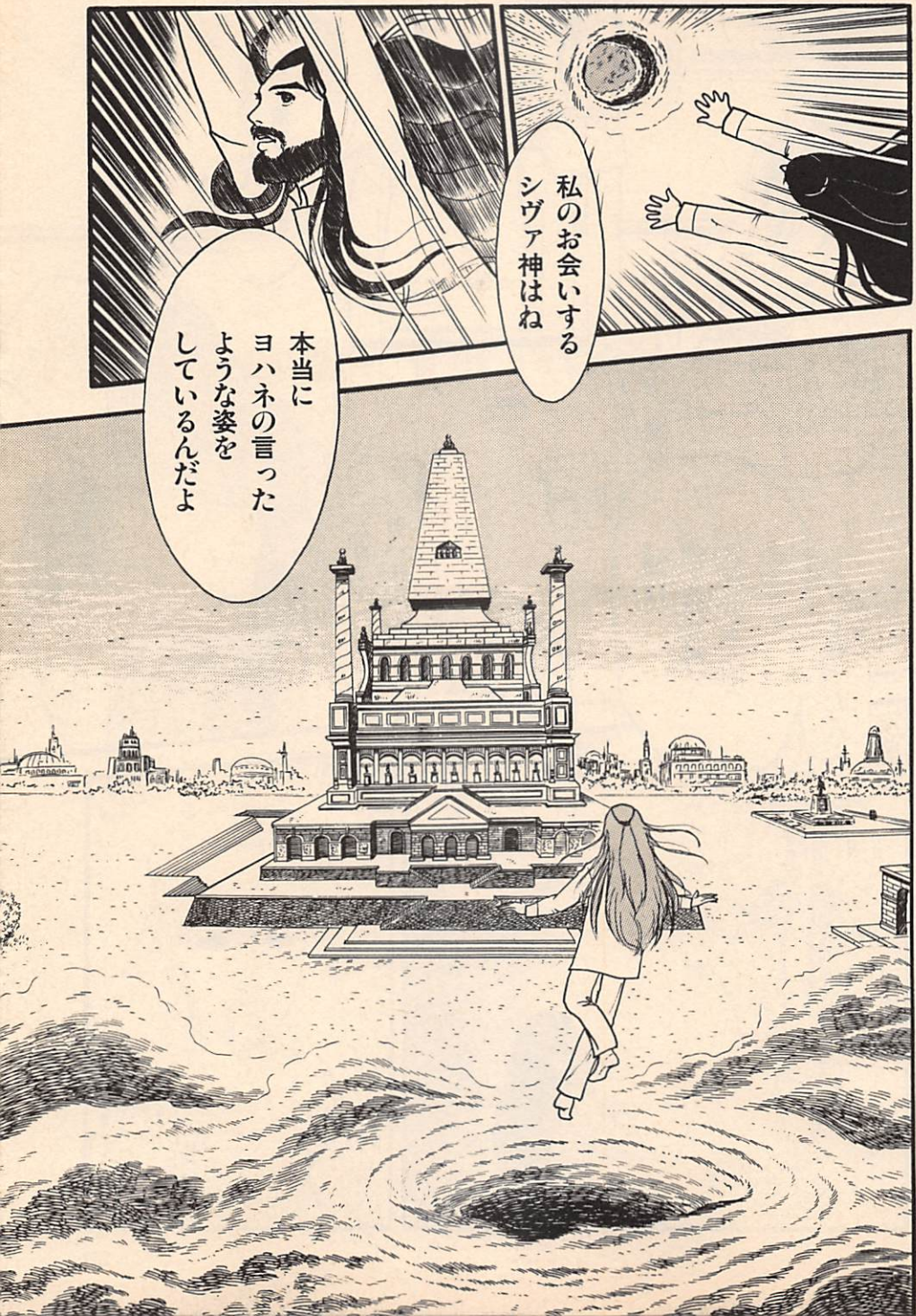
顔は、強く照り輝く
太陽のようであった。



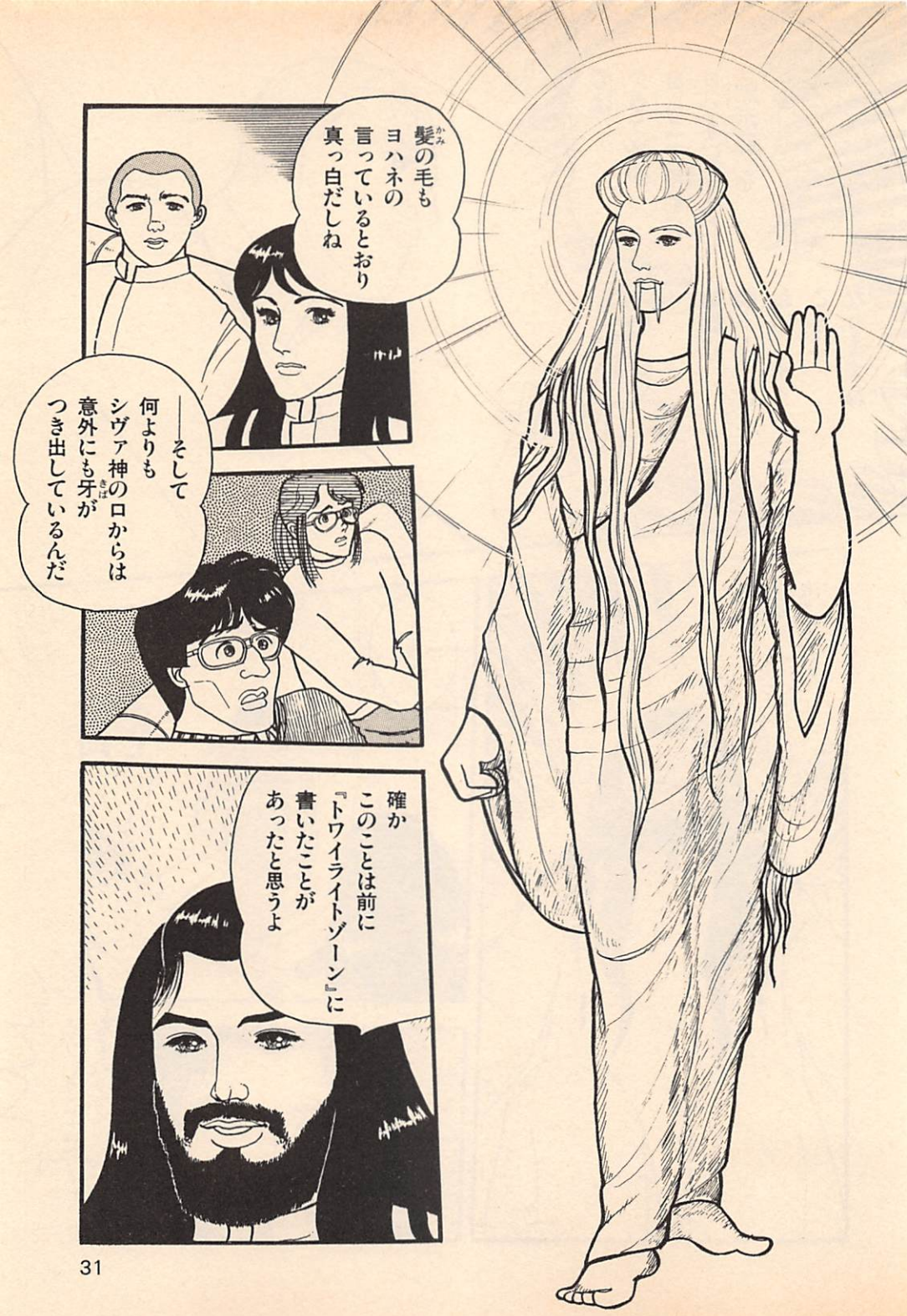
これを
読んで
私は
びっくりして
しまったんだよ
なぜなら
この人の子の
ような者は
私が
アストラル世界で
お会いする
シヴァ神の姿と
全く同じなんだ

ええ!?
ウーン
ボリボリ
キリスト教の聖書にシヴァ神……ですか?
茂(しげる)!おまえは固定観念が強すぎるんだよ
なぜなら〝オウム〟のシヴァ神は
インド神話に出てくるシヴァ神そのものではないよね

その存在をも含んだ
絶対自由
絶対幸福
絶対歓喜で
救済者を救済してくださる
真理の守護者のことだ

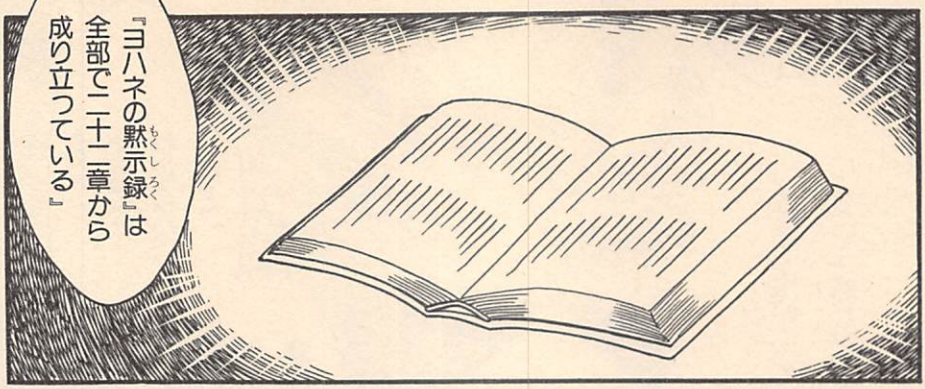

私のお会いする
シヴァ神はね
本当に
ヨハネの言った
ような姿を
しているんだよ

『黙示録』の記述のとおり
足までたれている衣を着てらしてね
全身が輝いているんだ
だからヨハネの目に
〝足は炉で精錬されて光り輝くしんちゅうのようであり〟
〝顔は強く照り輝く太陽のようであった〟
と映ったんだ


髪の毛も
ヨハネの
言っているとおり
真っ白だしね
——そして
何よりも
シヴァ神の口からは
意外にも牙が
つき出しているんだ
確か
このことは前に
『トワイライトゾーン』に
書いたことが
あったと思うよ

では
シヴァ神が
自ら二千年前に
ヨハネに与えた
『黙示録』を
尊師に
解くように
おっしゃっている
ことに
なりますね
何だか
面白くなって
きそうだね
そうだ
そういうことに
なるね！

まだ
私達には
わからない
けれど
眼前に
シヴァ神が
意思している道が
大きく広がっている
という感じだ!!


『ヨハネの黙示録』は
全部で二十二章から
成り立っている』

第一章から
第三章にかけては
彼が『黙示録』を
書くようになった
いきさつが

そして
彼が見せられた
恐ろしい
未来ヴィジョンに
ついての記述は
第四章
以降となる！

その
未来預言の
数々は
私が直感したとおり
一つの例外もなく
時代順に
並んでいたのである
したがって
我々現代人にとって
底知れぬ恐怖を
感じさせる
世紀末の未来預言は
第十六章から
スタートするのだが
まずは
順を追って
進めることに
しよう

ところで
〝七つの金の燭台〟と
〝七つの星〟というのが
出てきますよね

これはいったい
何のこと
なんですか？

少し後で
シヴァ神が
その奥義は
「七つの星は
七つの教会の
御使であり

七つの燭台は
七つの教会である」
と言われて
いるんですが

そう
言われても……

そうだね

まず
〝七つの燭台は
七つの教会〟
という方から
いこうか

それは
〝霊的センター〟の
ことを言って
いるんだよ

人間がその体に
持っている
主な*チャクラは
七つだろう

君達も
よく知っているとおり

※チャクラ……人間の体にある、霊的なセンター。クンダリニーの覚醒とともに開発され、超能力も司っている。

※クンダリニー……霊的なエネルギーで、人間の精神を高いレベルにまで押し上げる働きを持つ。

チャクラは
高い世界と
つながっている
ところだよね
そして
そのチャクラの
一つ一つに教えと
秘儀がある
例えば
胸のアナハタ・チャクラが
開いたときに
どういうステージに
至ることができ
どういう
超能力を
獲得できると
いうようなことだ
それと同じだろう

教会も
神々の
高い世界と
つながっていて
教えが
存在している
うーん
すごい
ですね
じゃあ
もう一つの
七つの星は
〝七つの教会の
御使(みつかい)〟とは
何のことだと思うか？

どうかな?
どう思う
ケイマ大師?
そうですね
各チアクラの
守護者(しゅごしゃ)の
ことですか?

そのとおりだ！
星の照らす範囲は狭いよね
光が小さいから
そういった意味で各チァクラだけを担当している七人の守護者を表わしているんだよ
だから教会つまりチァクラの御使とね
こうなるんだ

シヴァ神が
修行者であるから
修行者に
最も
関係している
チャクラの象徴が
表われて
いたんだろうね

※最終解脱者……すべてのヨーガの完成者。

うん
そういう
ことになる
そして
初めであり
終わりであるという
ことも
インドの
ヒンドゥー教と
一致して
いるわけだ
でも
一般的に
ブラフマンが
世界の創造を司り
ヴィシュヌ神が
維持を
そして
シヴァ神が
破壊を司っている神々と
されていますけど……

ところが
三身一体説も
あるんだよ
要するに
すべて同じ
シヴァ神のことを
指しているというね
この私も
シヴァ神をグルと仰ぎ
信奉しているんだから
もちろん 三身一体説
支持派だ

なるほど
実に
明快ですね
その後
シヴァ神は
ヨハネに
七つの教会に
「こう書き
おくりなさい」
と言って
細かく指示を下す
第二章と第三章は
その手紙によって
構成されている
初め
私は
ここの部分を
全く重視
していなかった
だからほとんど
気にも留めずに
未来ヴィジョンの
預言が始まる
第四章へと
進んでしまったのだ

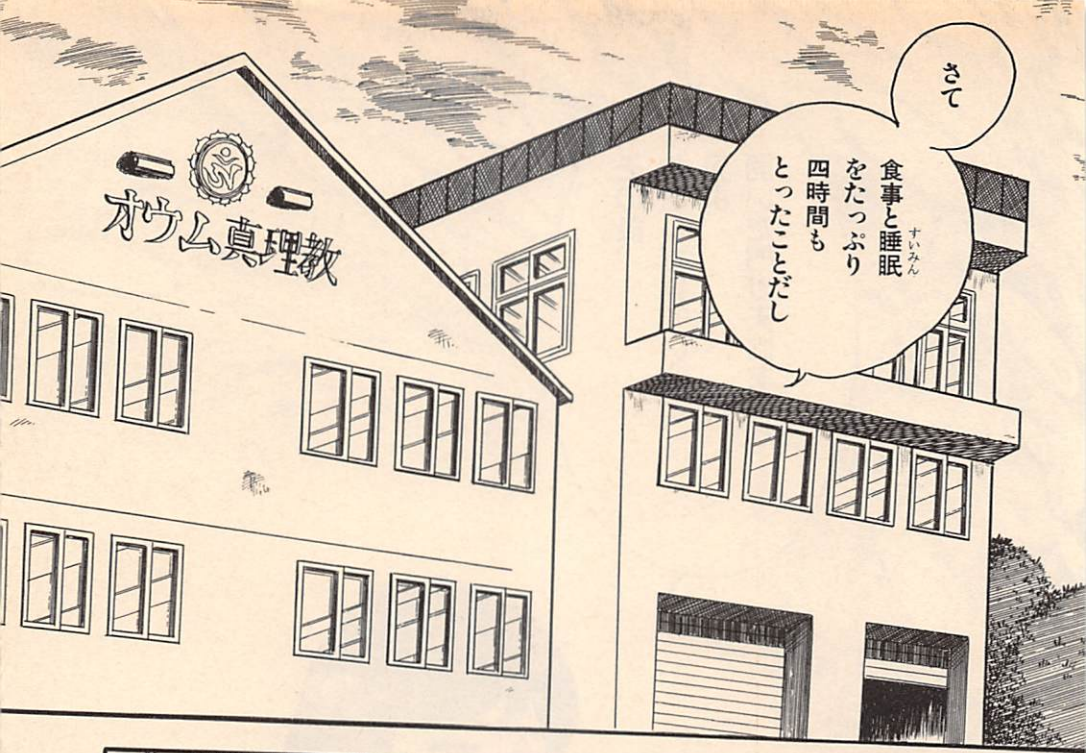
第3章　封印(ふういん)を解く者——ダビデの若枝(わかえだ)

※シャクティーパット……グルが弟子に直接エネルギーを移入し、相手の霊性を高める技法。オウムでは主に、弟子の額から移入している。施す側はエネルギーを口スし、相手のカルマを受けるため、異常な苦痛を伴う。

でも
今はすべての
公的スケジュールを
ストップされて
修行に専念
されているのでしょう?
いやあ
シャクティーパットの
あの過酷さは
そばについて
お世話した
大師にしか
わからないよ
そういう
ご自分の
苦しむ姿を
先生は
信徒さんや
弟子達の前では
決して見せない
からね

※涅槃(ねはん)……意図的に肉体を捨てて、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の状態に入ること。現象的には死を意味する。

そ
そんなあ!!
ハァハァ
——だから
思わず
そういう言葉が
出てしまうほど
ひどい
状態なんだよ
今の先生は
何しろ
六百人の人達の
悪しきカルマを
身に受けて
それと闘って
いるんだからね


さて
食事と睡眠(すいみん)をたっぷり四時間もとったことだし
オウム真理教

それではいよいよ第四章の解読から始めようか!
ケイマ大師(たいし)読んでくれ
はい

その後、
わたしが見ていると、
見よ、
開いた門が天にあった——

ここに上ってきなさい！
そうしたら
これから
起こるべき
ことを
見せてあげよう
ヨハネは
シヴァ神の
言葉に従い
天に昇ってゆく。
すると、
そこには御座があり、
そこに
座っていらっしゃる
方があった。
その方は、
碧玉や
赤めのうのように見え、
また
御座の周囲には
緑玉のように見える
虹が現われていた。

また、
御座の周りには、
二十四人の長老が
白い衣を身にまとい、
頭に金の冠をかぶって、
それぞれの座に
ついていた。
御座からは、
いなずまと、
もろもろの声と、
雷鳴とが
発せられていて、
七つの
ともし火が
燃えている。
御座の前は、
まるで
水晶に似た
ガラスの海のような
だった。

御座の周りに四匹の生き物がいた。
それらは、その前にも後ろにも一面に目を持っていた。
第一の生き物は獅子のよう、
第二の生き物は雄牛のよう、
第三の生き物は人のような顔を持ち、
第四の生き物は鷲のようであった。
四匹の生き物には、それぞれ六つの翼があって、
その周りにも内側にも数多くの目があった。

これは
古代中国の
伝説に出てくる
四聖獣のことだね

獅子のような
生き物は
麒麟のことだし

雄牛のような
生き物は
牛と同じく
頭に二本の角を
生やした龍

人のような
顔を持ったのは
亀(中国の文献に
そういう記述がある)

鷲のような
生き物は
鳳凰だ

そして
四匹は昼も夜も
こう叫び
続けていた。
聖なるかな、
聖なるかな、
聖なるかな、
全能者にして主なる神。
昔いまし、今いまし、
やがてきたるべき者。
四匹が、
御座にいる
世々限りなく
生きておられる方に、
栄光と
ほまれを帰して
感謝をささげて
いるとき
二十四人の長老は
その方の前に
ひれ伏して拝み、

彼らの冠を
御座の前に
投げ出して言った。

われらの
主なる神よ、

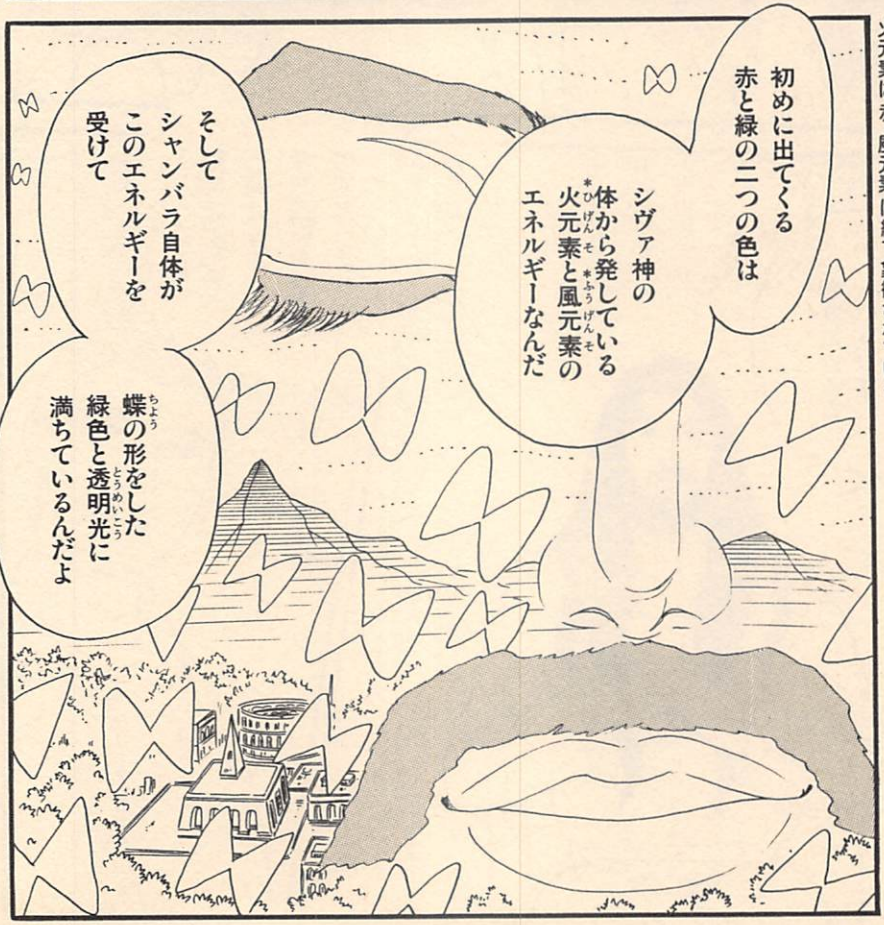
あなたこそは、
栄光とほまれと
力とを受けるに
ふさわしいかた。

あなたは
万物を造られ
ました。

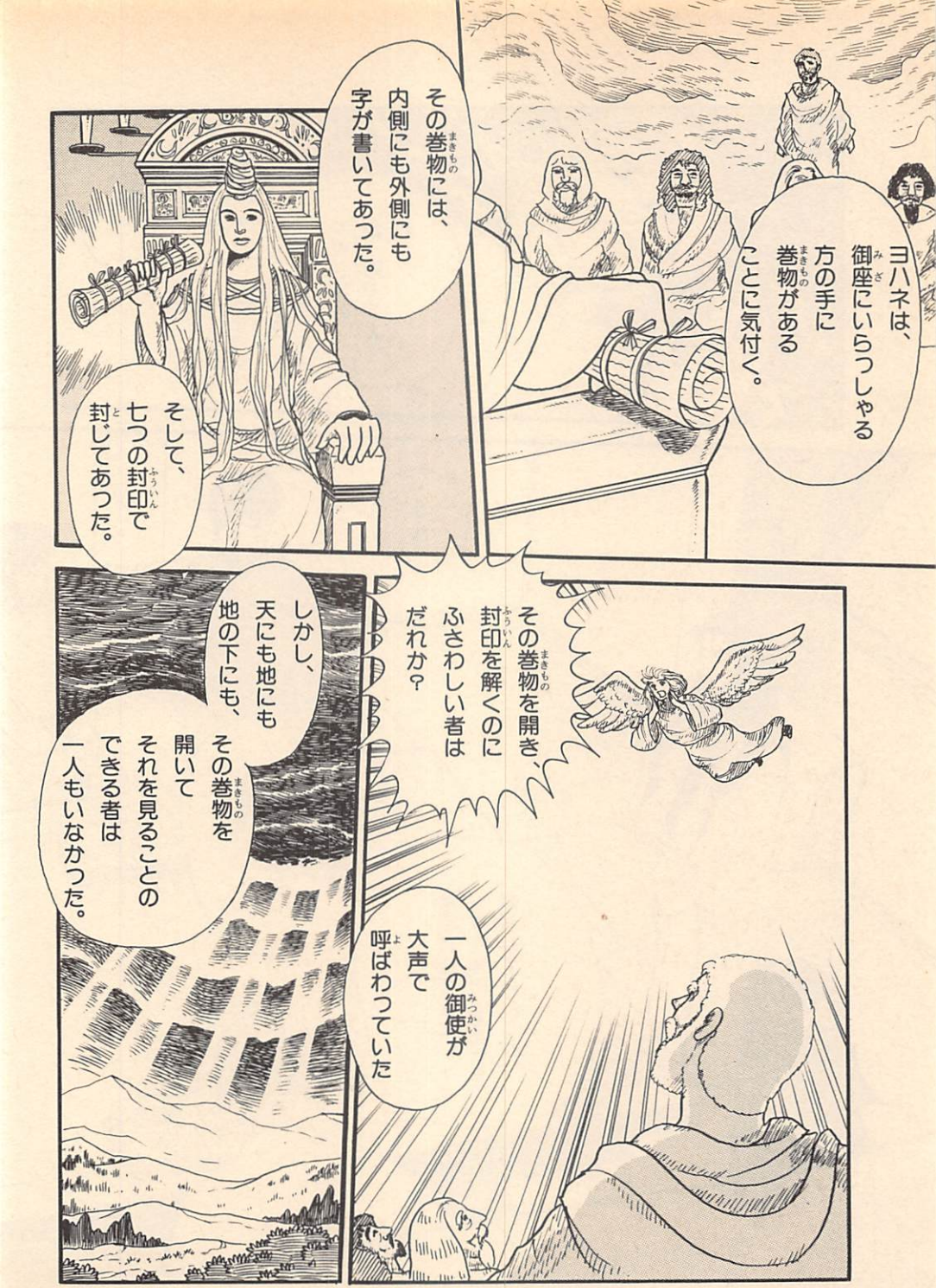
御旨によって、
万物は存在し、
また造られた
のであります。

この
〝御座にいる方〟
というのは
シヴァ神の
ことだね

※シャンバラ……シヴァ神が統治する伝説の理想郷のこと。宇宙の全真理を極めた魂のみが入ることができる。
※火元素・風元素……宇宙を構成している五つの元素のうちの二つ。火元素は赤、風元素は緑で象徴されている。

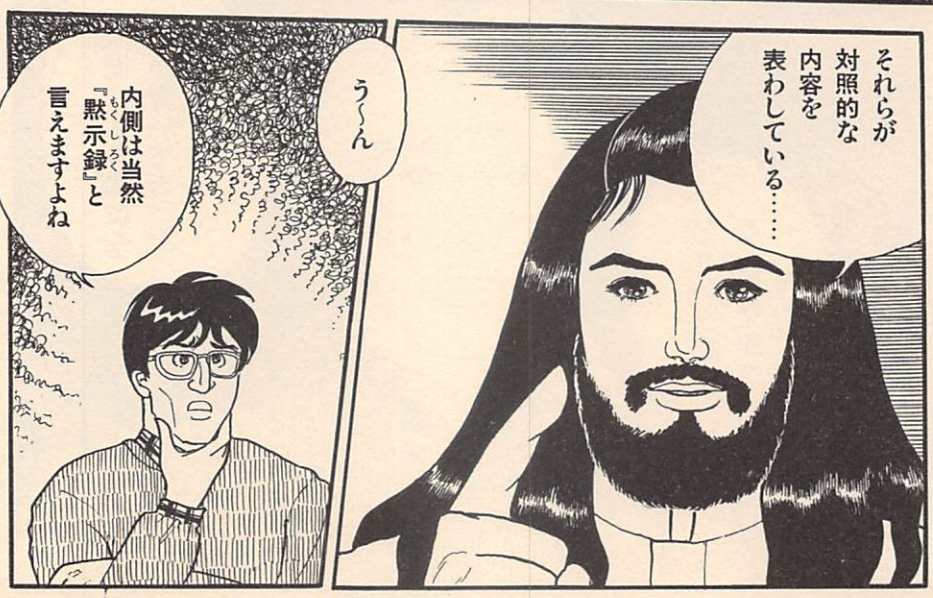


その後に
出てくる
〝いなずま〟も
〝雷鳴〟も
シヴァ神の
象徴ですよ
ね
うん
しかも
〝世々限りなく
生きている〟
という言葉は
最初に出てきた
シヴァ神のときにも
使われていたしね


ヨハネは、
御座にいらっしゃる
方の手に
巻物がある
ことに気付く。
その巻物には、
内側にも外側にも
字が書いてあった。
そして、
七つの封印で
封じてあった。
その巻物を開き、
封印を解くのに
ふさわしい者は
だれか？
一人の御使が
大声で
呼ばわっていた
しかし、
天にも地にも
地の下にも、
その巻物を
開いて
それを見ることの
できる者は
一人もいなかった。

それを知った
ヨハネは
激しく泣いた。
すると
一人の長老が
ヨハネに言う。
泣くな！
見よ！
ユダ族の獅子
ダビデの若枝で
ある方が
勝利を得たので
その巻物を開き
七つの封印を
解くことができる
—と
内側にも外側にも
字が書いてあった
というのは
どういう意味
なんですか？

――そうだね
内側には
秘すべき事柄
外側には
公開しても
かまわない事柄が
書かれていると
考えていいと思うね
そして
一枚の紙の
表と裏に
書かれていると
いうことは


それらが
対照的な
内容を
表わしている……
う～ん
内側は当然
『黙示録』と
言えますよね

だけど
外側は？
さあて
何だと思う？
たぶんだれもが
よく知っている
ものだろうね
――聖書は
二種類あり
ましたよね

『黙示録』は
『新約聖書』の
終わりにあります

では
それと
対照的に
『旧約聖書』の
最初に
あるものは……

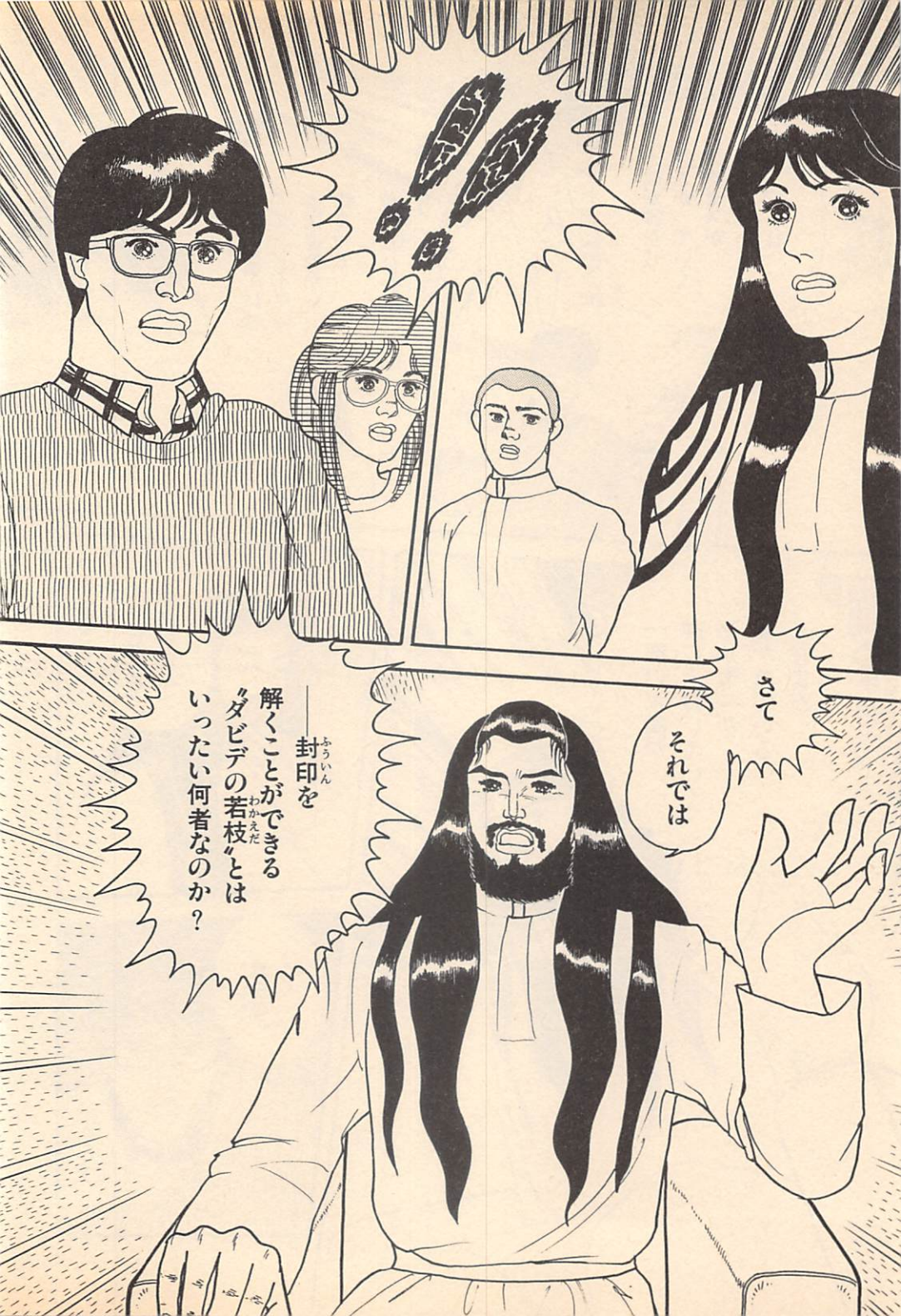
※アニャータ……マハー・ムドラーという第三段階の成就を修めた者に与えられる称号。マハー・ムドラーを成就すると、素晴らしい分析力を得ることができる。

マンジュシュリー大師
まず『創世紀』の方を読んでくれ
はい
え〜と
例えばですね……
……神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。
天の下の水は一つの所に集まり、かわいた地が現われよ!!

『黙示録』の方では
〝先の天と地とは消え去り海もなくなってしまった〟となっていますね
それじゃあ
〝神はその光とやみとを分けられた。
神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。〟——というのは？

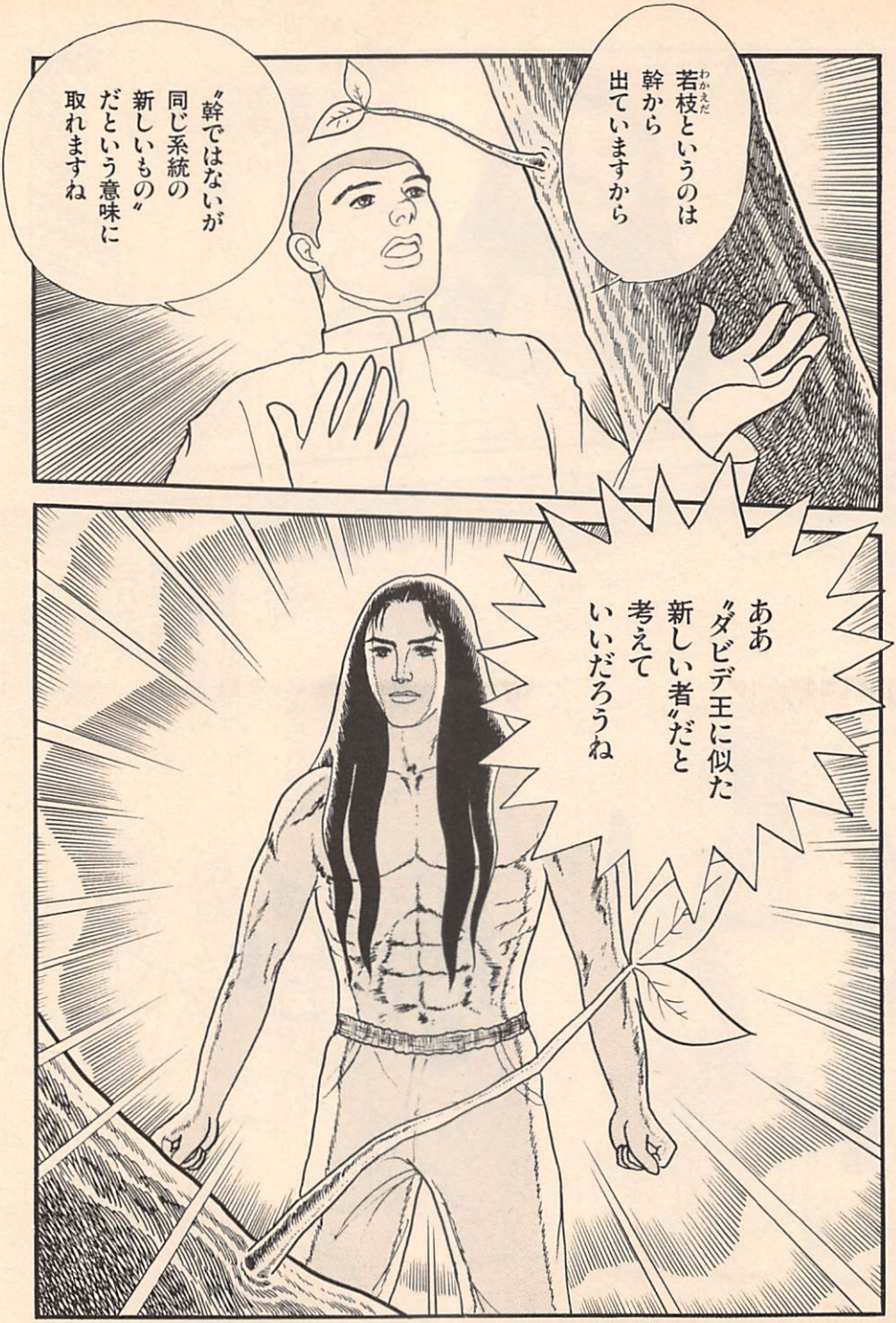
〝そこには
夜がない〟
という表現が
ありますね
オウム真理教
う〜む
これはあちこちで
対照的な記述を
見つけることが
できますね
……
……
……
……
そうだね

全体的に
見ると
『旧約聖書』には
アダムとイヴの
楽園追放から
始まって
人間が神から
遠ざかっていく
プロセスが
書かれている
ようですね
うん
それに対して
『黙示録』は…
『黙示録』
は？
一部の人間が
神に近付いていく
プロセスが
書かれている
んだよ!!


!!!
さて
それでは
――封印を
解くことができる
〝ダビデの若枝〟とは
いったい何者なのか？

ダビデの若枝……
ダビデは『旧約聖書』に出てくる知恵と武勇に優れた
イスラエルの王様の名前ですよね

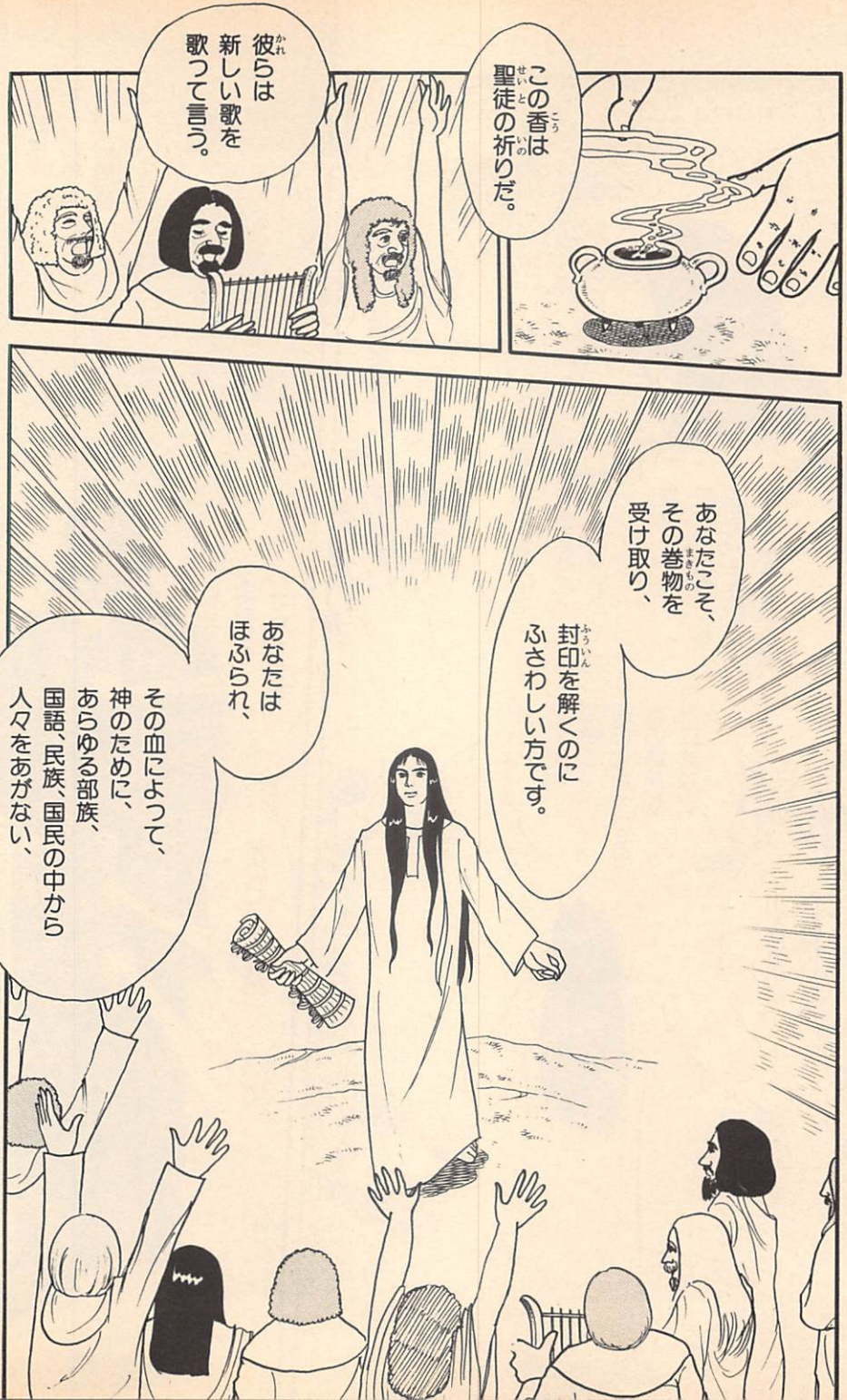
うん
紀元前一〇〇〇年頃に次々と近隣諸国の征服に成功し
イスラエルの黄金時代を築き上げた人物だね
「主の僕」「祭儀の祖」などとも呼ばれている


若枝というのは
幹から
出ていますから
〝幹ではないが
同じ系統の
新しいもの〟
だという意味に
取れますね
ああ
〝ダビデ王に似た
新しい者〟だと
考えて
いいだろうね

さて
いよいよ
その〝ダビデの
若枝(わかえだ)〟の
登場だね

ヨハネは、
御座(みざ)と四匹(ひき)の
生き物との間、
長老たちの間に、
ほふられたと
見える小羊が
立っているのを
見た。

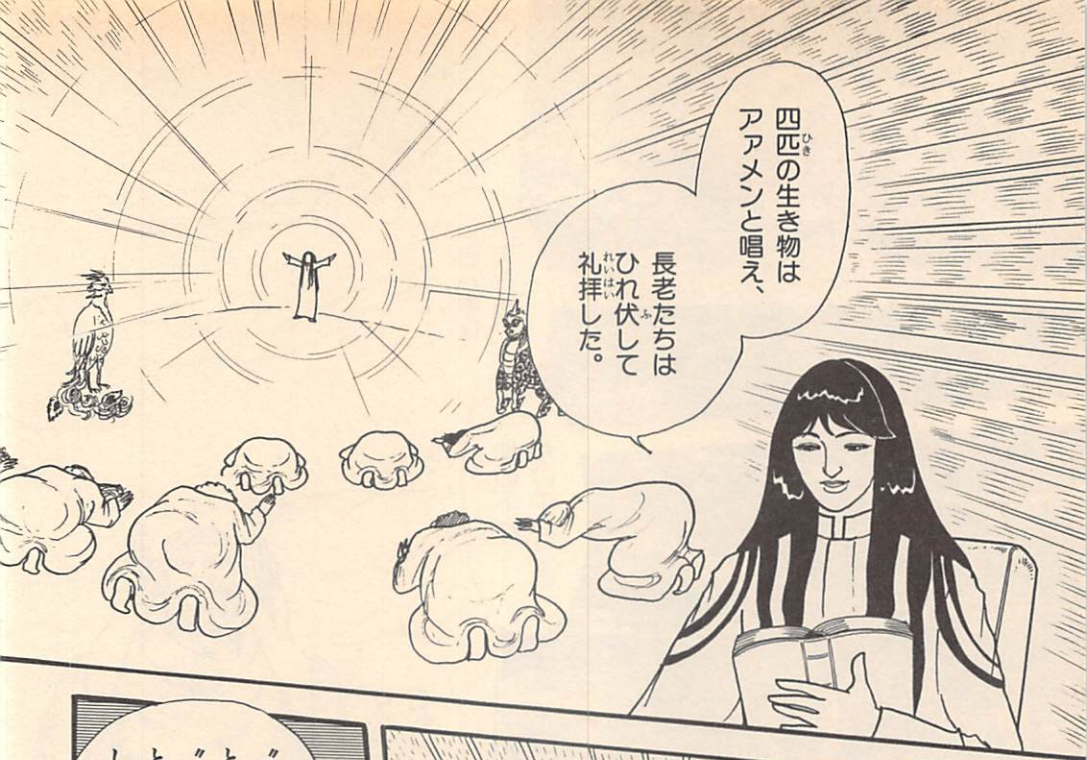
それは
七つの角と
七つの目を
持っていた。
これらの
目は、
全世界に
つかわされた、
神の七つの霊だ。
小羊は進み出て
御座にいらっしゃる、
方の右手から、
巻物を受け取った。
巻物を
受け取ったとき
四匹の生き物と
二十四人の長老は
それぞれ
立琴と
香の満ちている
金の鉢とを
手に持って
小羊の前に
ひれ伏した。


この香は聖徒の祈りだ。
彼らは新しい歌を歌って言う。
あなたこそ、その巻物を受け取り、封印を解くのにふさわしい方です。
あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から人々をあがない、

わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。
彼らは地上を支配するに至るでしょう。

御座と
生き物と
長老達との周りに
多くの
御使達の
声があがるのが
聞こえた。
その数は
万の何万倍、
千の何千倍もあつて、
大声で叫んでいた。
ほふられた
小羊こそは、
力と、富と、
知恵と、勢いと、
ほまれと、栄光と、
さんびとを受けるに
ふさわしい。

ヨハネは、
天と地、
地の下と
海の中にある
すべての
造られたものと、
すべてのものの
言う声をきいた。
御座にいますかたと
小羊とに、
さんびと、ほまれと
栄光と、権力とが
世々限りなく
あるように。


四匹の生き物は
アァメンと唱え、
長老たちは
ひれ伏して
礼拝した。

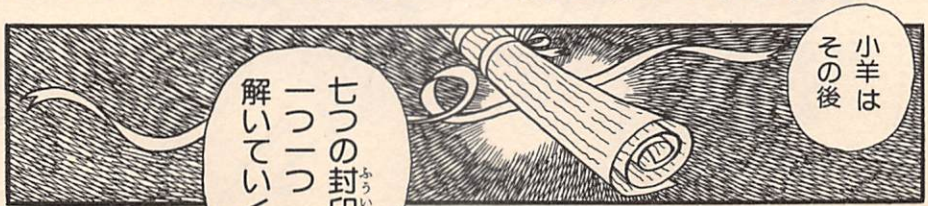
〝ダビデの
若枝〟の正体は
〝ほふられた
見える小羊〟
だったんだね
〝ほふられた〟
というのは
〝いけにえになった〟
という意味で
しょう?

一般的には
イエス・キリストを
指しているという
見方が強い
ようですが……

いや
それはね
イエスに
限らず
〝他のために
自らを
犠牲にした
救済者〟を
象徴している
んだよ

シャンバラは
時間そのものを
超越した
ところですからね
そうだ！
だから
昔いまし、今いまし、
やがて来たるべき者〃
という表現が
出てくるんだよ
だから
イエスより
もっと過去の
救済者のこと
かもしれないし
もっと未来の
救済者のこと
かもしれないんだね

第4章　黙示録の四騎士――解き明かされる真実



その度に
ヨハネの眼前に
未来ヴィジョンが
現われ
そして
過ぎてゆく
のである
ヨハネは
こう書いている
小羊がその
七つの封印の一つを
解いた時、
わたしが
見ていると、
四つの生き物の
一つが
雷のような声で
きたれ!!
と呼ぶのを
聞いた。

そして
見ていると、
見よ！
白い馬が
出てきた。

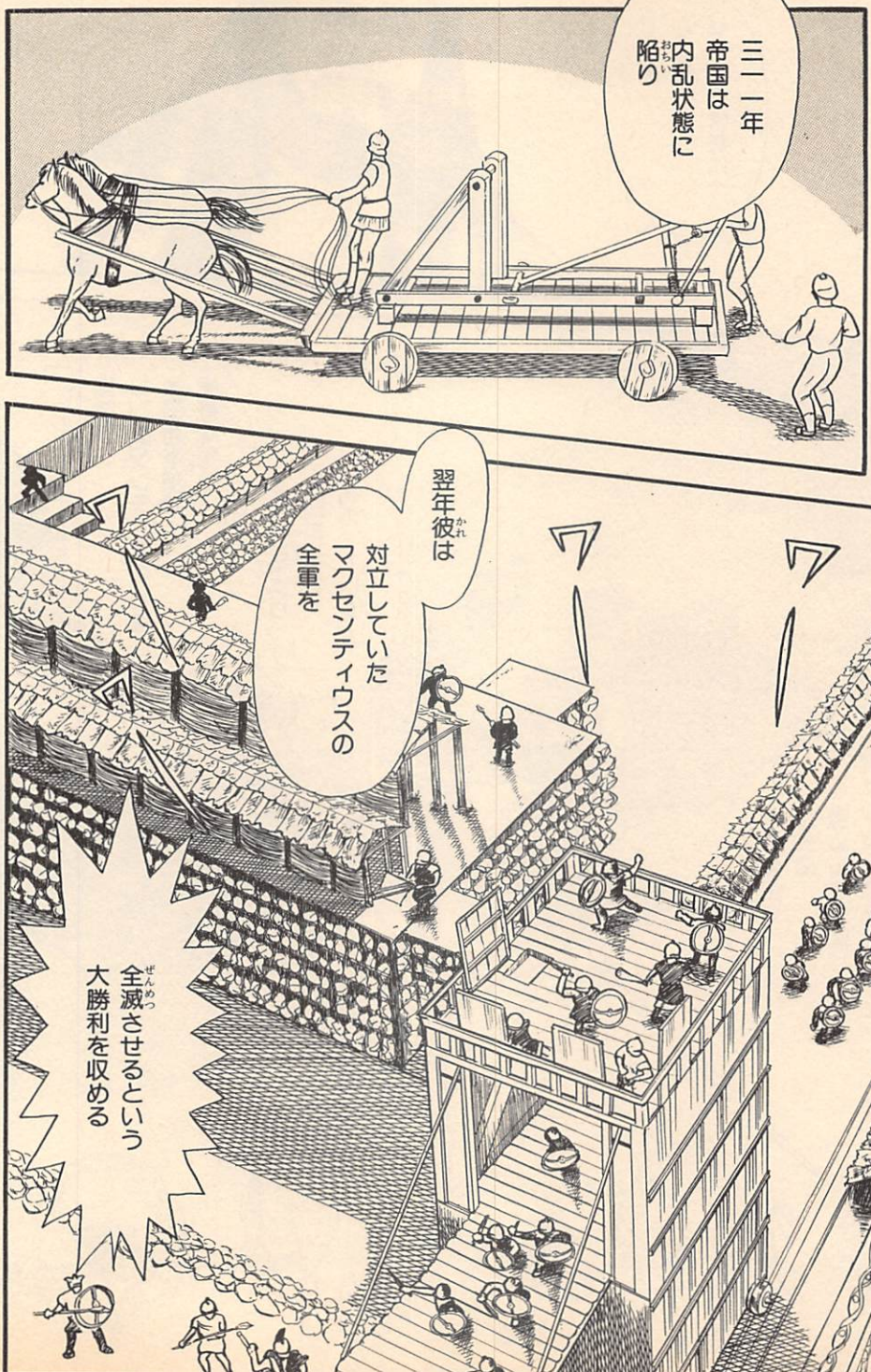
そして、
それに
乗っている者は、
弓を手に
持っており、
また冠を
与えられて、

勝利の上にも
なお勝利を
得ようとして
出かけた。

これは
ローマ時代の
キリスト教公認の
ことだね
――私の
直感智(ちょっかんち)が
そう伝えて
きている

ちょっと
調べて
みましょう
パラパラ
えー
キリスト教は
三一三年
ミラノ勅令(ちょくれい)で
コンスタンティヌス帝に
よって
公認されています

じゃあ
その時の
ローマの情勢は？
当時
コンスタンティヌス帝は
帝国西半部で
実権を握り
三一〇年より
自ら正帝を
名乗っていたが
その帝位は
正式に
認められては
いなかった


三一一年
帝国は
内乱状態に
陥り
翌年彼は
対立していた
マクセンティウスの
全軍を
全滅させるという
大勝利を収める

この出来事が
戦いを表わす
〝弓〟と〝勝利〟
によって
表現されて
いるんだね
〝勝利を得た彼は
ローマに入城し
第一正帝を
宣した〟
なるほど
ここで
〝冠を与えられ〟
ていますね
ローマにある
有名な凱旋門は
この勝利を記念して
建てられた
……と書いて
ありますね

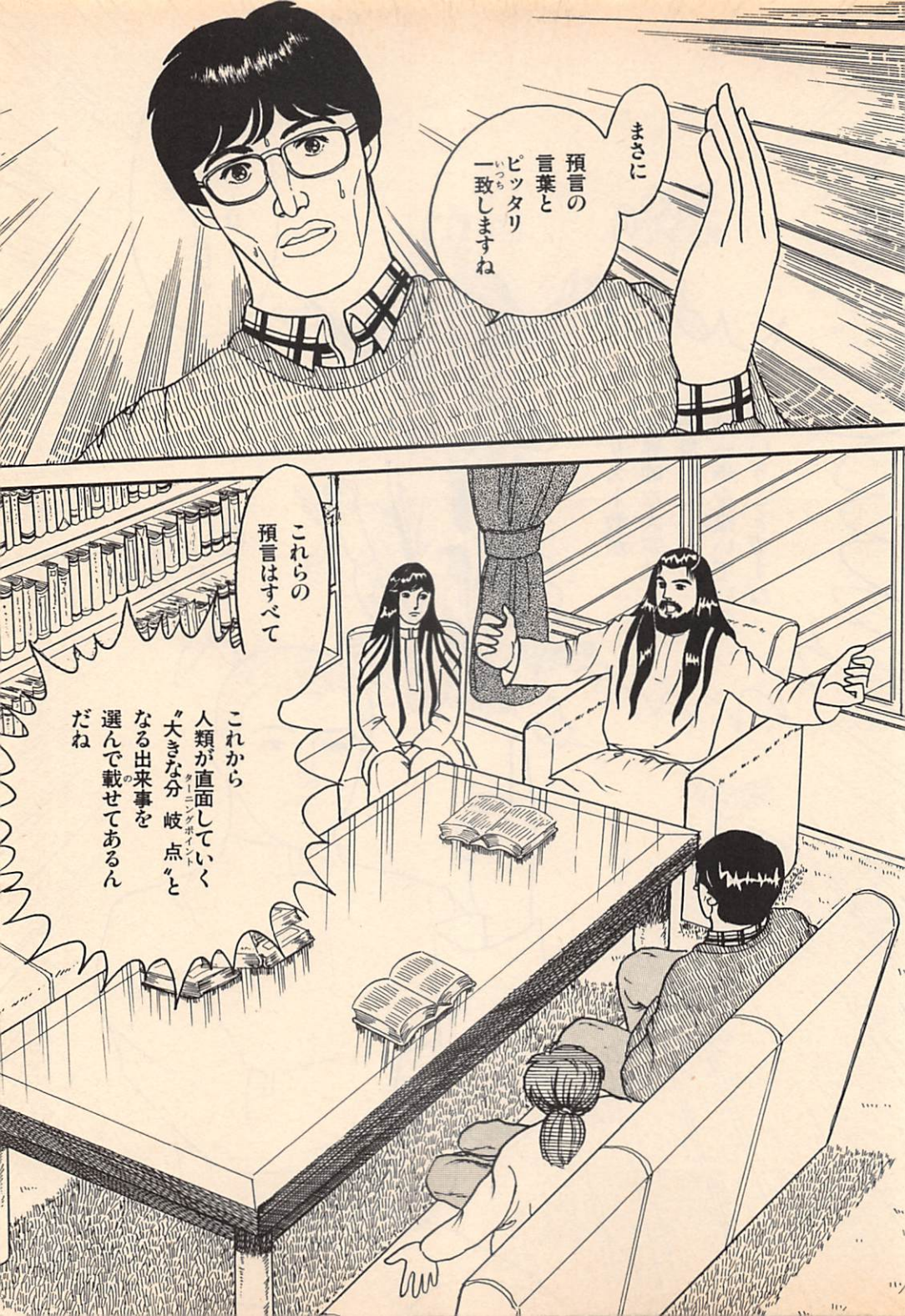
コンスタンティヌス帝の
野望は
とどまることを知らず
帝国全土の
独裁者となることを
望んだ

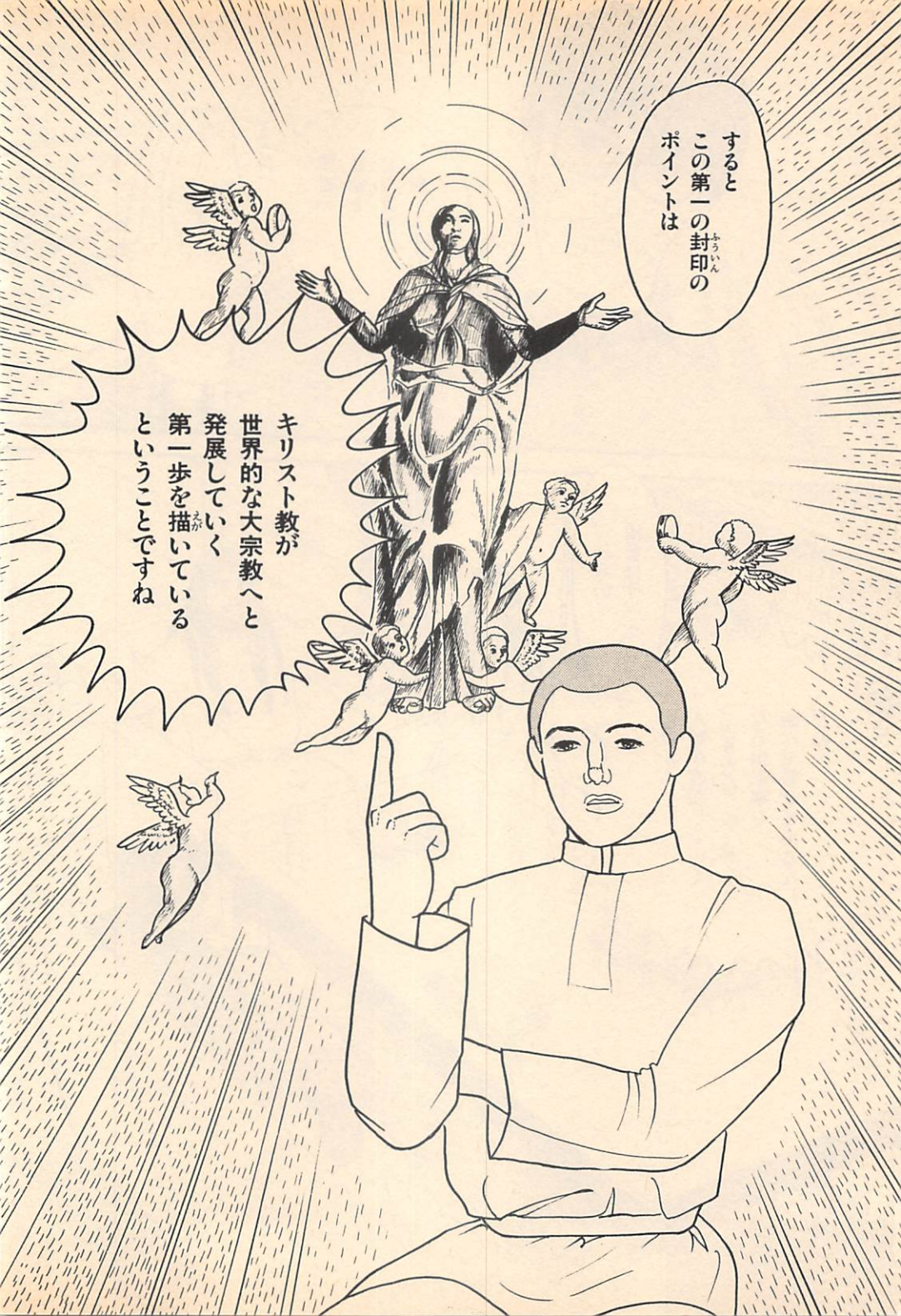
〝勝利の上にも勝利を得る〟ためにはどうしたらよいのか?
そこで彼が目をつけたのがキリスト教を公認してキリスト教徒を抱き込むことだったんだ
なるほど
残酷な迫害を受け続けてきたキリスト教徒はそれにもかかわらずローマ帝国内で増え続けていましたからね

特に彼がねらっていた東半部に多かったようですね
そうだ
これを公認することで味方につけることができたら——
頭のいいコンスタンティヌス帝はキリスト教に改宗し公認するに至ったんだね

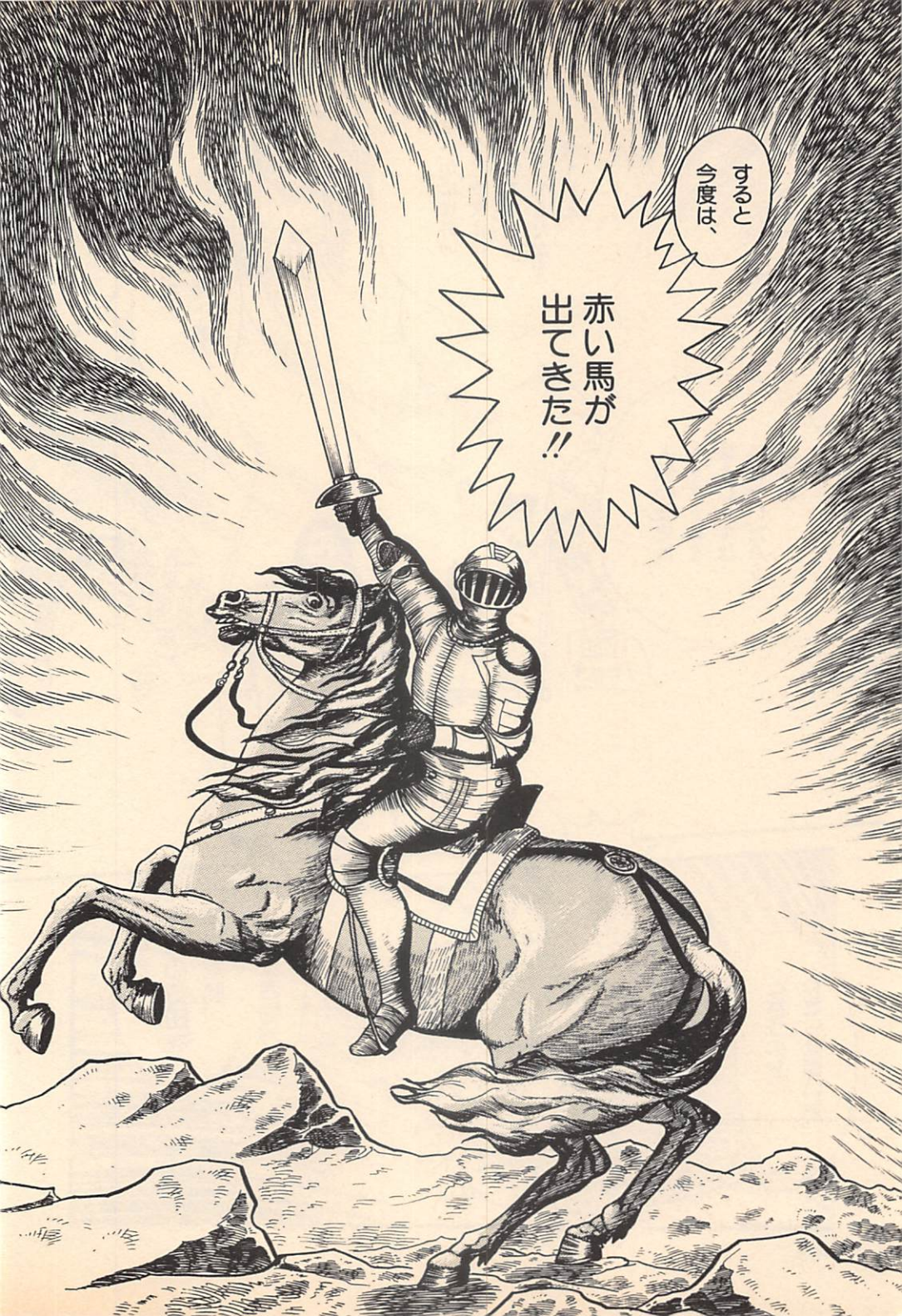
この馬の〝白〟は功徳(くどく)の〝白〟ですね
ああ
宗教とともに勝利を得ようとしている様子が明確に現われているね

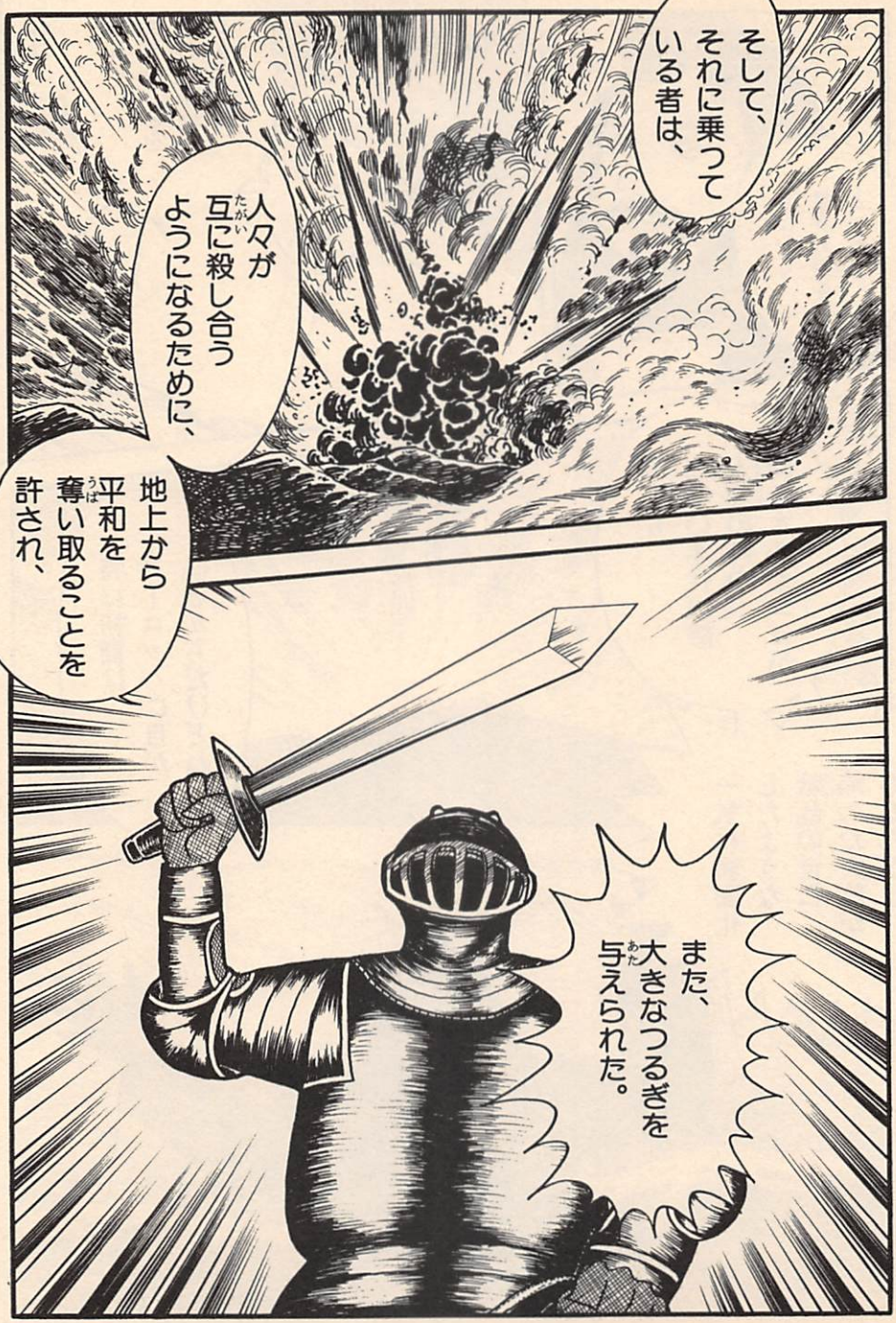
三二四年
彼はとうとう
帝国全土を
手中に収めることに
成功する


まさに
預言の
言葉と
ピッタリ
一致しますね
これらの
預言はすべて
これから
人類が直面していく
〝大きな分岐点(ターニングポイント)〟と
なる出来事を
選んで載せてあるん
だね


すると
この第一の封印(ふういん)の
ポイントは
キリスト教が
世界的な大宗教へと
発展していく
第一歩を描(か)いている
ということですね

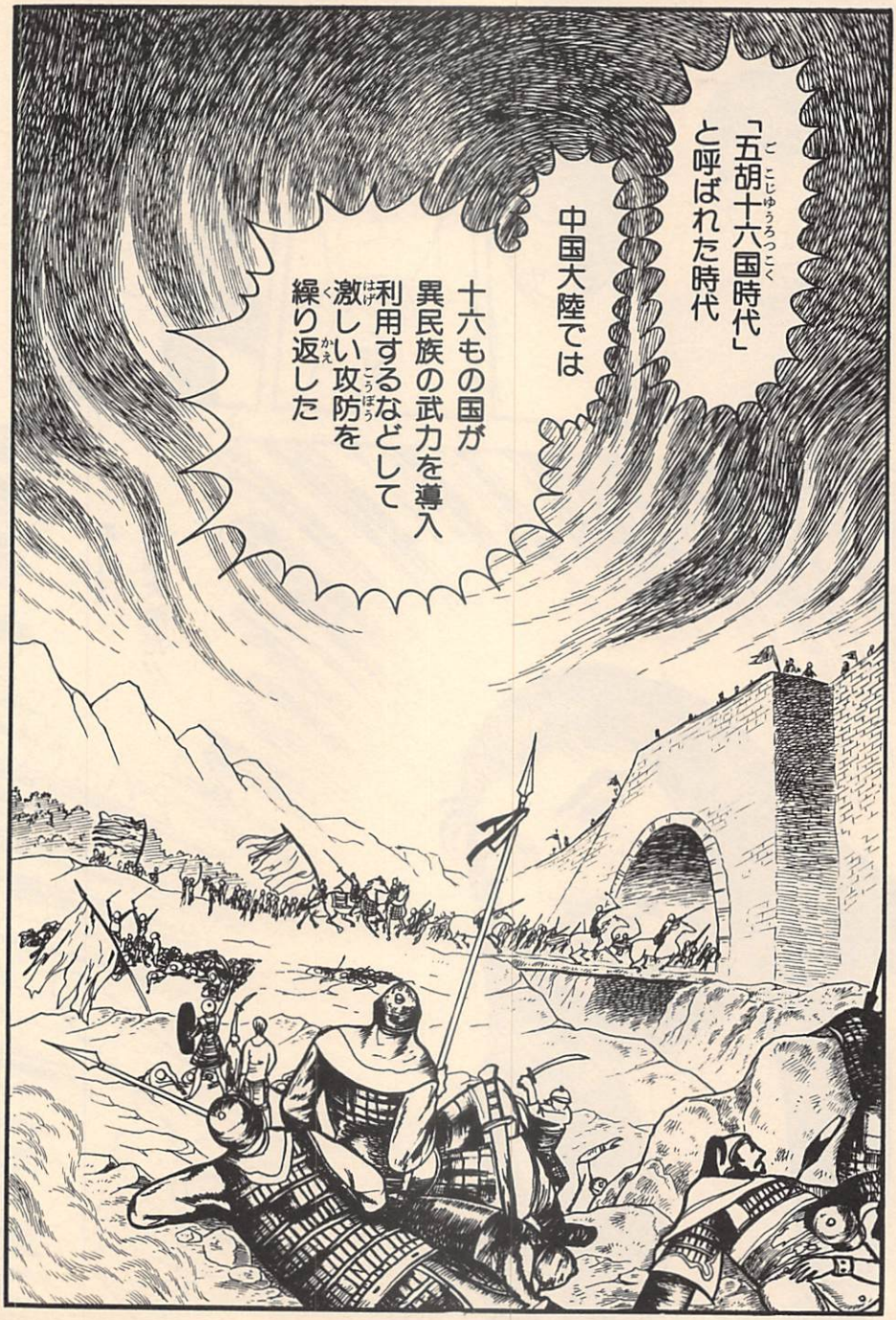
うん
その後の
キリスト教が
いかに世界の
情勢や文化に
多大な影響を
与えてきたかを
考えると
人類の歴史は
キリスト教を
抜きにしては
語れないだろう
からね
小羊が
第二の封印を
解いた時、
第二の生き物が
きたれ！
と言うのを、
わたしは聞いた。


すると
今度は、
赤い馬が
出てきた!!


そして、
それに乗って
いる者は、
人々が
互に殺し合う
ようになるために、
地上から
平和を
奪い取ることを
許され、
また、
大きなつるぎを
与えられた。

これは
戦乱が
始まることを
表わしている
ようですね
うん
とにかく
世界の歴史
というと
特に初期は
ヨーロッパに目が
向きがちだけどね
早くも
三〇〇年代以降
人間の持つ
闘争本能やエゴが
一気に表面化
したような
戦乱の世に
陥った大陸が
あるんだよ

？
それは
中国大陸だ!!

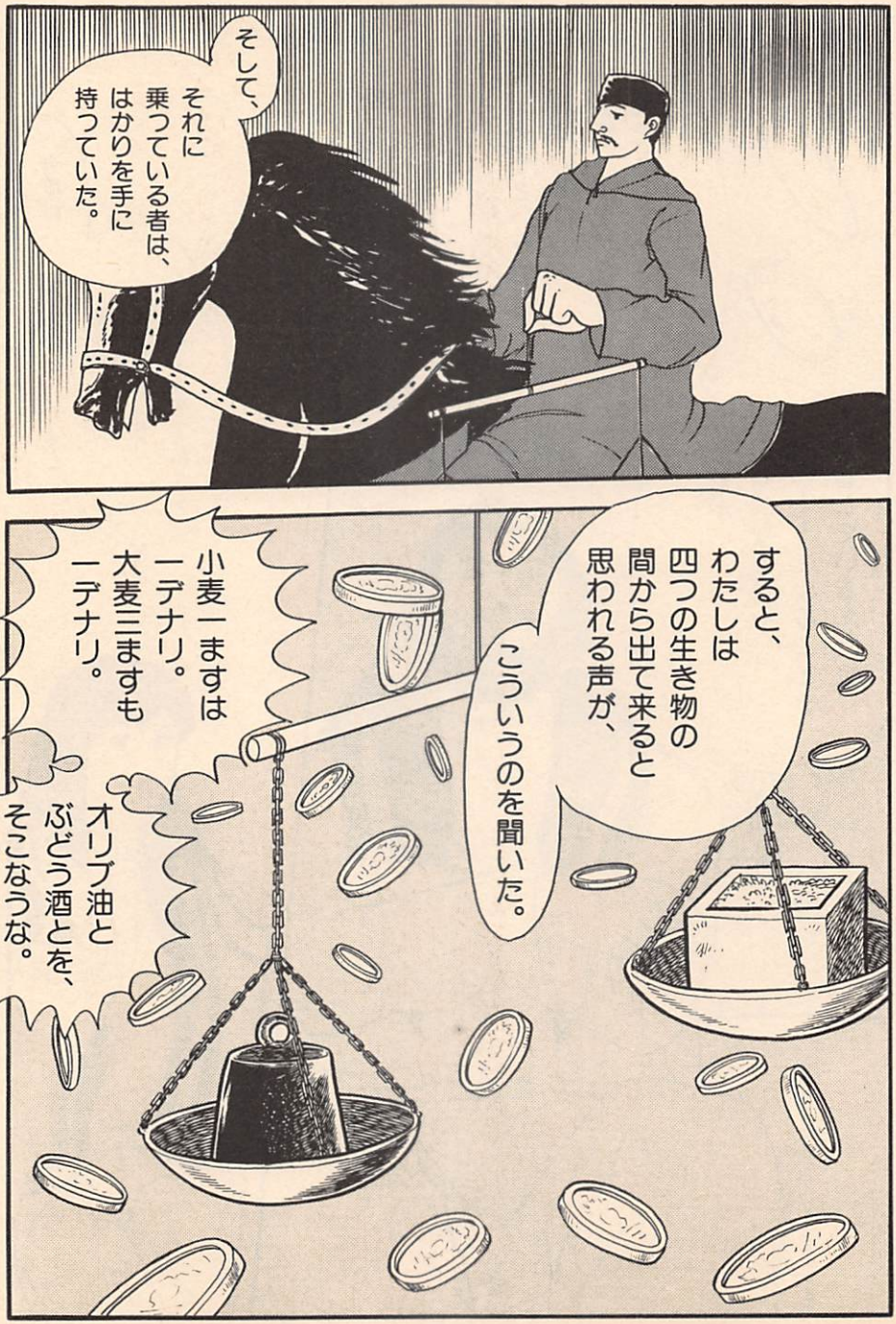

「五胡十六国時代」
と呼ばれた時代
中国大陸では
十六もの国が
異民族の武力を導入
利用するなどして
激しい攻防を
繰り返した

名を挙げられている十六国以外にも
非常に短命だった国や他の諸国
国というには及ばない小政権までもが
中国を舞台に各地で戦争をしているという
まさに殺し合いの時代だ!!

そういえば
この時代に
中国で
火薬が発明
されています
ほう
すると
馬の〝赤〟は
戦乱だけでなく
大量殺人を
可能とする
〝火薬〟の発明も
暗示しているのかも
しれないね

それで
つじつまが
合いますよ!
確か
ヘブライ語の
『黙示録』では
この馬の色は
〝火のような色〟
となっていましたから

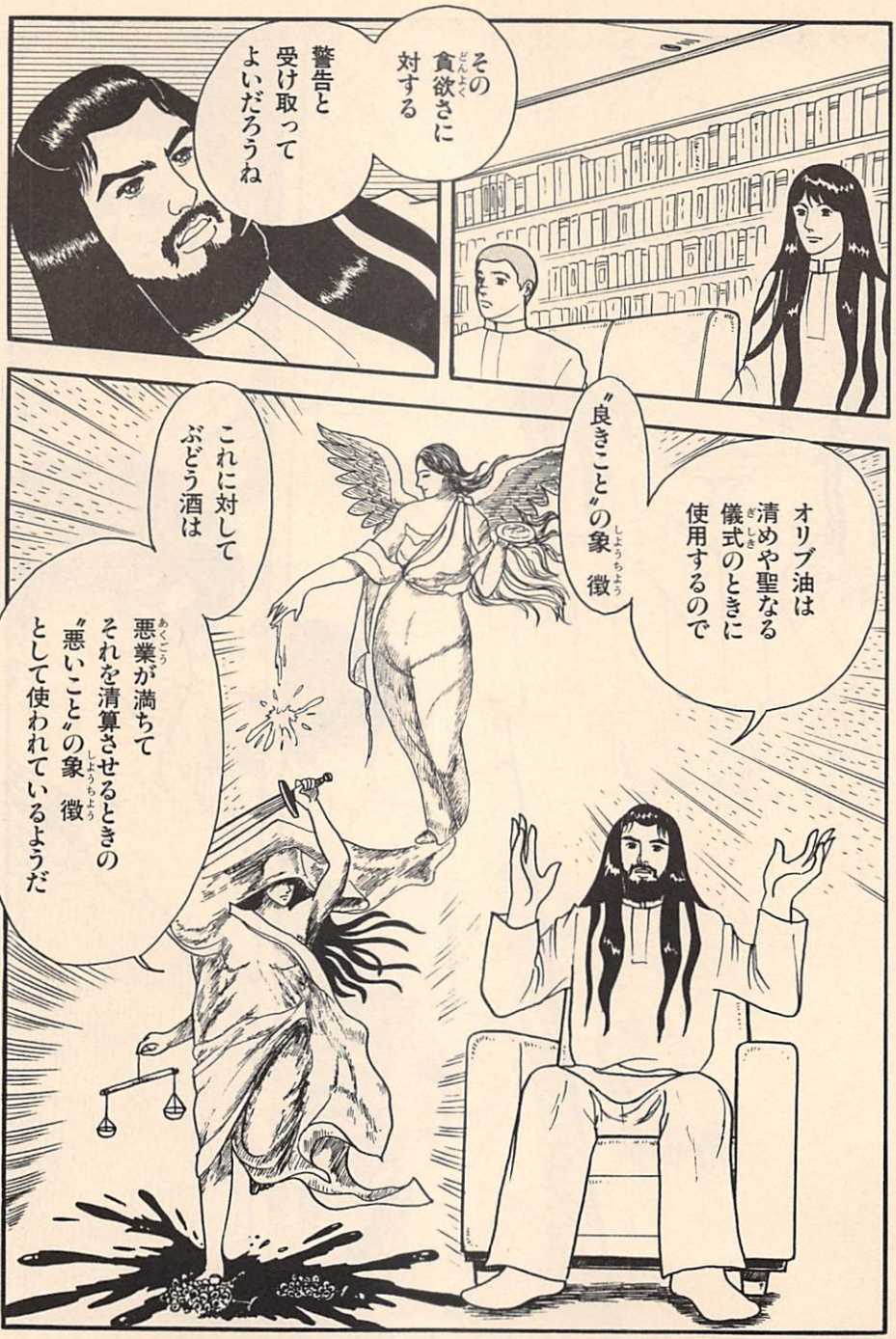
また、
第三の封印を
解いた時、
第三の
生き物が
きたれ!!
と言うのを、
わたしは
聞いた。
そこで見ていると、
見よ!!
黒い馬が
出てきた。


そして、
それに
乗っている者は、
はかりを手に
持っていた。
すると、
わたしは
四つの生き物の
間から出て来ると
思われる声が、
こういうのを聞いた。
小麦一ますは
一デナリ。
大麦三ますも
一デナリ。
オリブ油と
ぶどう酒とを、
そこなうな。

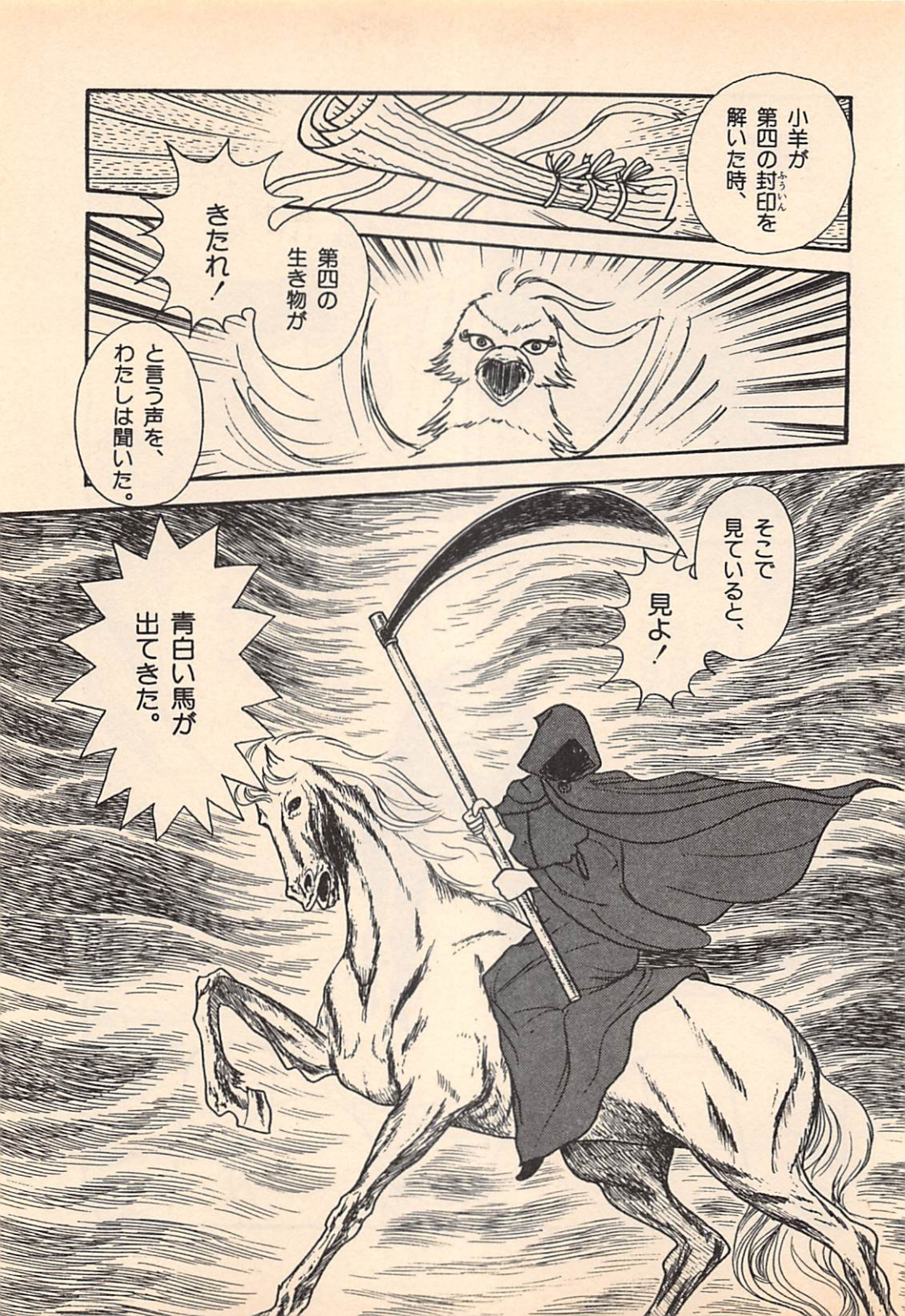
今度は
貨幣経済の
発達を示して
いるようですね
うん
デナリというのは
貨幣の単位で
小麦一ますがいくら
大麦三ますがいくらと
貨幣が
絶対的な価値を
持つようになることを
預言しているんだね

すると
だいたい
六〜七世紀頃の
世界情勢ですね
そうだね
貨幣経済が
発達すれば
するほど
人々は
お金や物質に
支配されて
貪欲になって
いくんだ

それが
馬の〝黒〟で
表わされて
いるわけだ
なるほど
じゃあ
次の
「オリブ油と
ぶどう酒とを、
そこなうな。」
——と
いうのは？


その
貪欲さに
対する
警告と
受け取って
よいだろうね
オリブ油は
清めや聖なる
儀式のときに
使用するので
〝良きこと〟の象徴
これに対して
ぶどう酒は
悪業が満ちて
それを清算させるときの
〝悪いこと〟の象徴
として使われているようだ

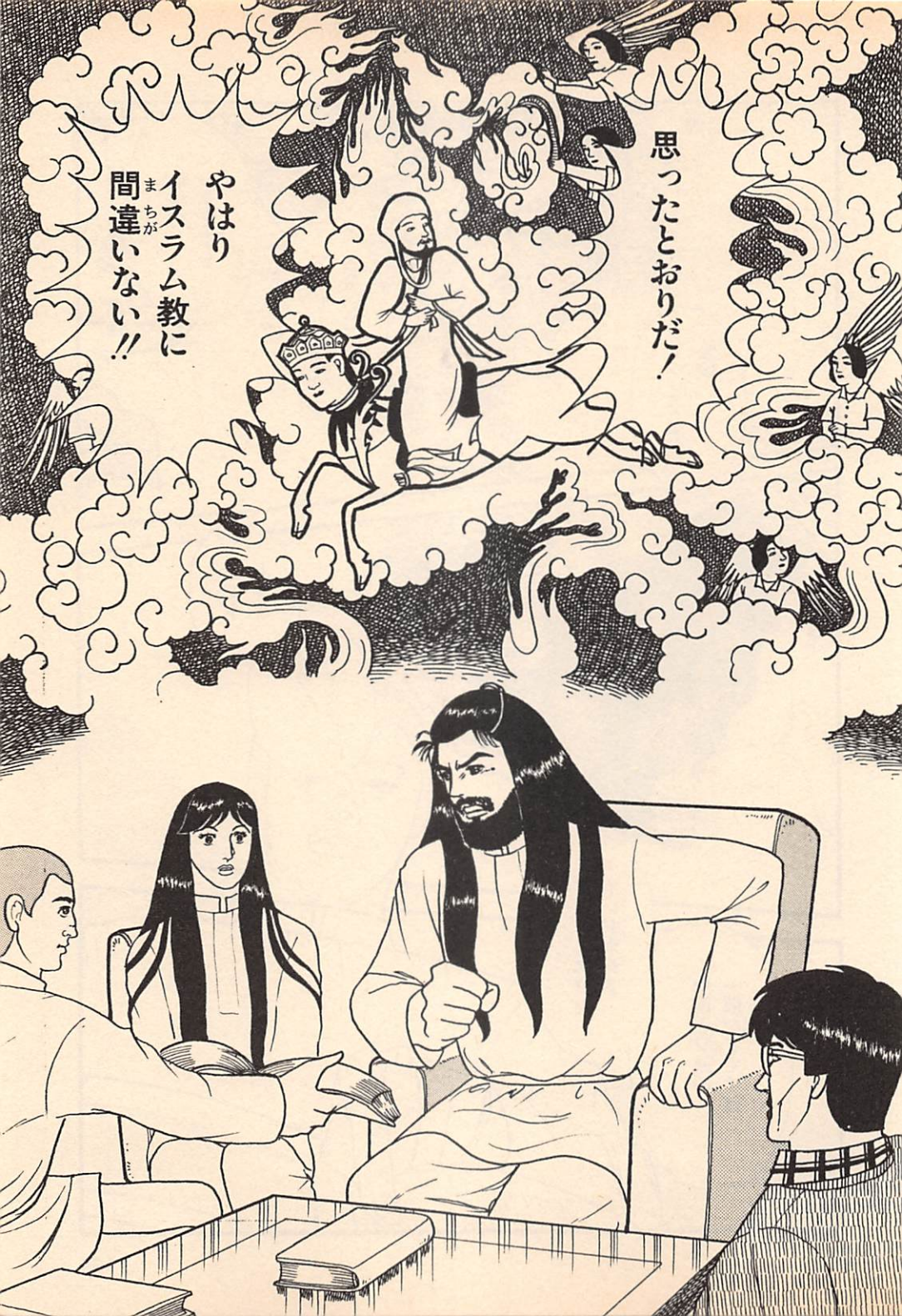
※カルマの法則……自己の行なった行為は、必ず自分に返ってくるという法則。この世のすべての事象に当てはまる。


小羊が
第四の封印を
解いた時、
第四の
生き物が
きたれ！
と言う声を、
わたしは聞いた。
そこで
見ていると、
見よ！
青白い馬が
出てきた。

そして、
それに
乗っている
者の名は
「死」と言い、
それに
黄泉が
従っていた。
彼らには、
地の四分の一を
支配する権威、
および、
つるぎと、ききんと、
死と、地の獣らとによって
人を殺す権威とが、
与えられた。

青白い色
というのは
正しくない信仰や
次元の低い信仰を
表わしている
アストラル世界の
光の色だ
すると
正しくない宗教
ということですね
しかも
死と黄泉が
従っているという……！

何の宗教を指しているんですかね?
ヒントは
地の四分の一を支配するらしいということだね
宗教分布図で見れば……
図説バイブル
あ、ここですね!!
日本
インド
エジプト
サウジアラビア


思ったとおりだ！
やはり
イスラム教に
間違いない!!

地域で
いきますと
アフリカ大陸の
三分の二近く
アラビア半島
全域
インド
トルコ
イラン
パキスタン
アフガニスタン
インドネシア
中国とソ連の
一部などですね

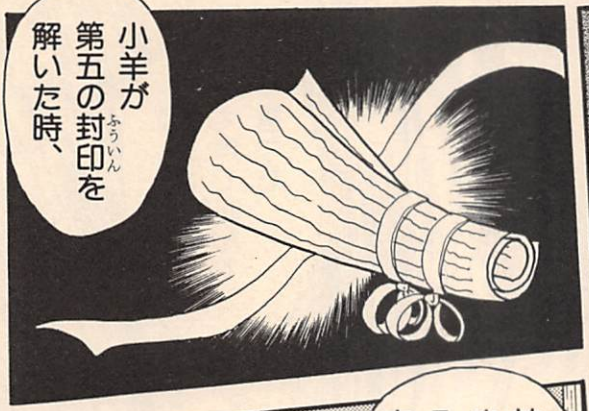
――確かに
〝きぎん〟と猛獣の
多い地域ですね
おまけに
〝つるぎ〟に
象徴される
戦争まで
多いよね
ええ
中東戦争
ソ連の
アフガニスタン侵攻
インド・パキスタン戦争と
数えていったら
キリがないですね

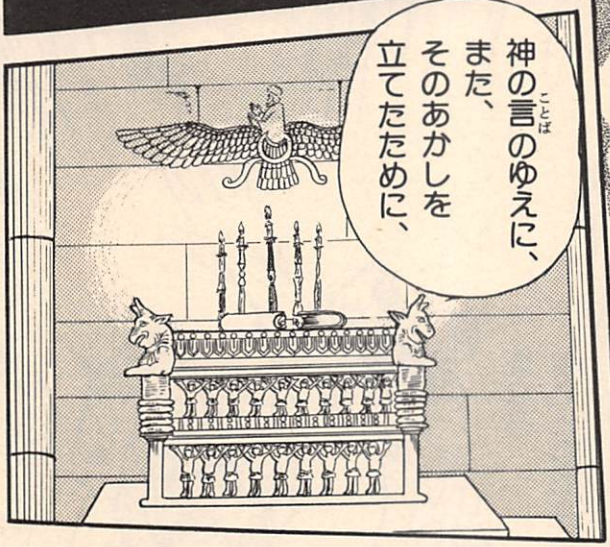
もともと
イスラム教自体が
ほとんど
武力侵略によって
広まった宗教なんだ
侵略先の文化や
宗教を破壊
しながらね

死と黄泉が
従っているというのは
何となく
不気味ですね
ああ
もしかしたら
最終戦争に
イスラム教国が
深く関わっている
のかもしれないね
そんな
嫌な予感が
するね

ここまでの
預言は
すべて馬が
出てきた
これは
キリスト教
戦争
貨幣経済
イスラム教
が
馬のように
突き進み
大発展して
世界に多大な
影響を与えることを
暗示していた

そしてさらに
小羊は
第五の封印を
解く


小羊が
第五の封印を
解いた時、


神の言のゆえに、
また、
そのあかしを
立てたために、

殺された人々の
霊魂が、
祭壇の下にいるのを、
わたしは見た。

彼らは
大声で叫んで
言った。
聖なる、
まことなる主よ。
いつまであなたは、
さばくことをなさらず、
また地に住む者に対して、
わたしたちの血の報復を
なさらないのですか。

すると、
彼らの
ひとりびとりに
白い衣が
与えられ、
それから、
彼らと同じく
殺されようとする
僕 仲間や兄弟たちの
数が満ちるまで、
もうしばらくの間、
休んでいるように
と言い渡された
初めに
出てくる
〝殺された人々〟
というのは
殉教者を
指している
ようですね

ああ
それは
間違い
ないだろう
神の意にかなう
殉教を遂げた人々が
「神よ！　いつまで
自分達の血の報復を
しないのか」
と叫んでいるんだ

私は
中世以降の
キリスト教には
疑問を感じる
けれど
それ以前は
真理だった
んだと思うよ
だからこそ
それまでの
迫害時代の
殉教者に
〝白い衣〟が
与えられたと
こう解釈するね

――ケイマ大師はどう思う?
私もそう思います
白は真理の宗教の色
天界に至る白ですから
尊師
ここではキリスト教以外の殉教者は含まれていないんですか?

前の預言を
見てごらん
シヴァ神は
イスラム教は
正しくない
してらっしゃる
だから当然
イスラム教は
除外されるだろう

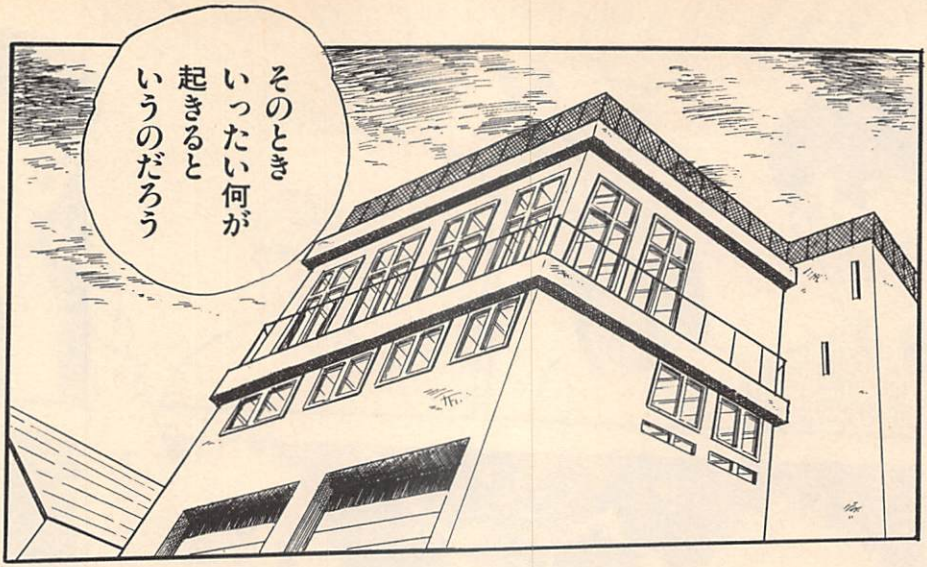
仏教の場合は
強力な保護者が
いない時代に
衰退したことは
あっても
この時代までに
迫害されたことは
なかった

その他の
宗教については
よく知らないが
当然真理の
殉教者がいたら
含まれるだろうね

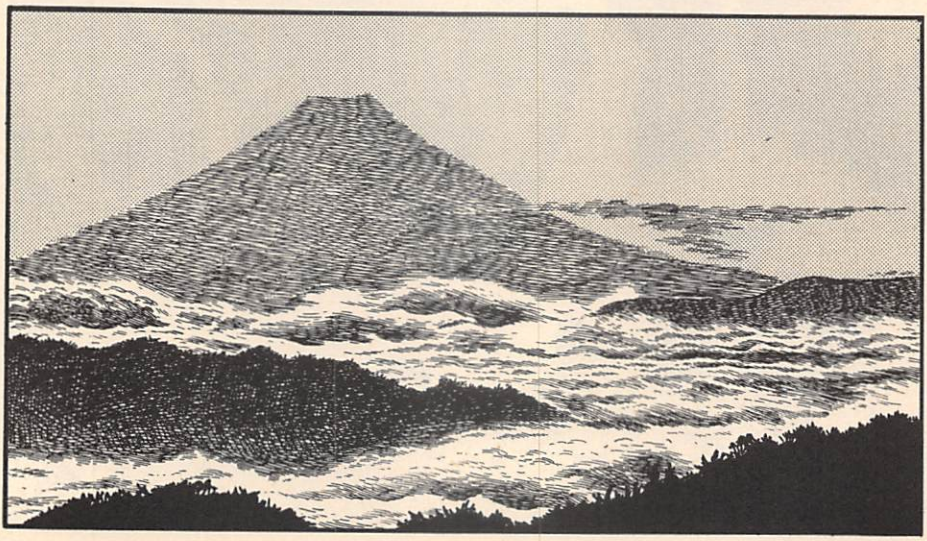
なるほど
わかりました
ところで
もうしばらくの間
待てとなっている
ところが
気になるね
そうですね
果たして
いつまで待てと
いうのか
そして
いつ血の報復を
するというのか……

私は
これは
人類滅亡の
時代を指している
と考える！

!!
そのとき
真理のためには
死をいとわない
人々の数が満ち
神は
邪悪(じゃあく)なる者たちに
血の報復をする
——と



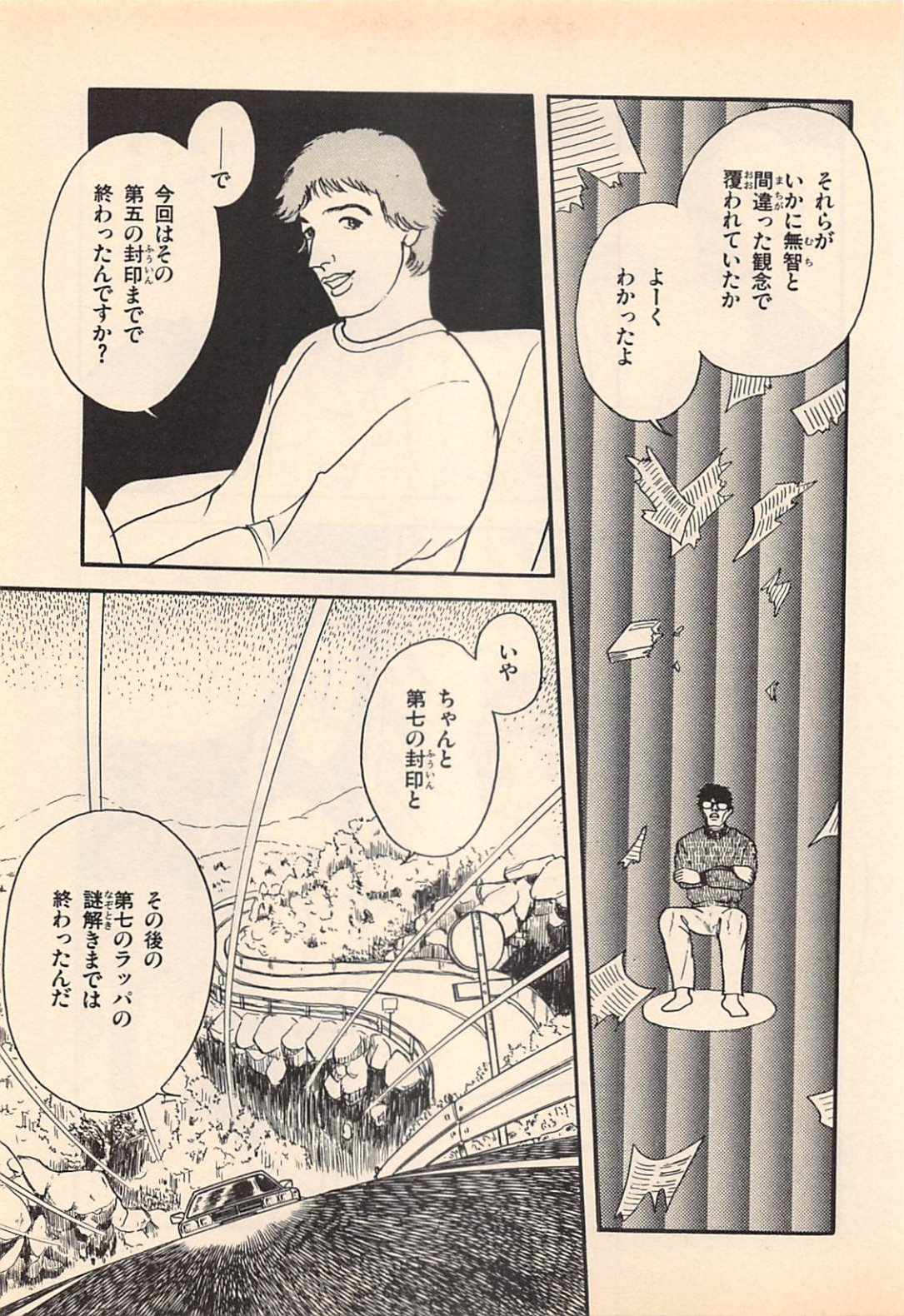
第5章　大いなる神の怒り——大噴火による洗礼

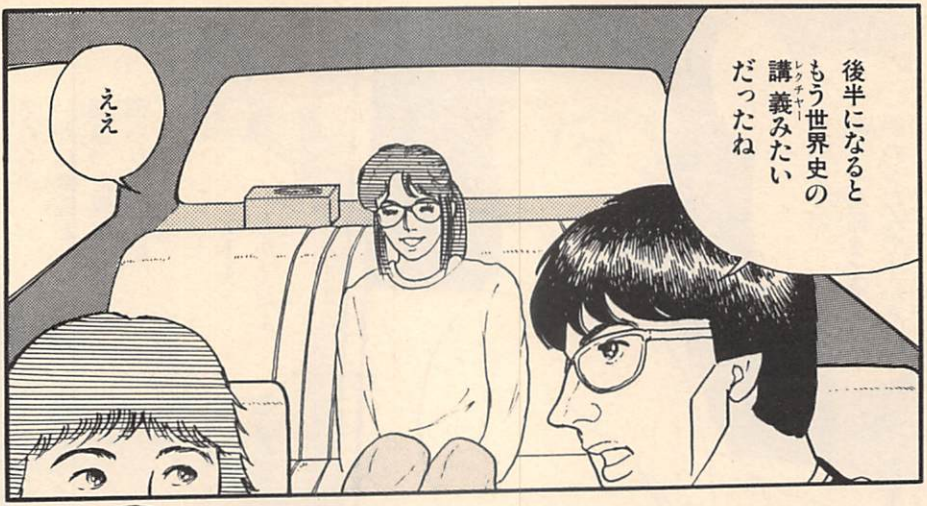


※純粋観照智……すべてをありのままに見つめる知性のこと。

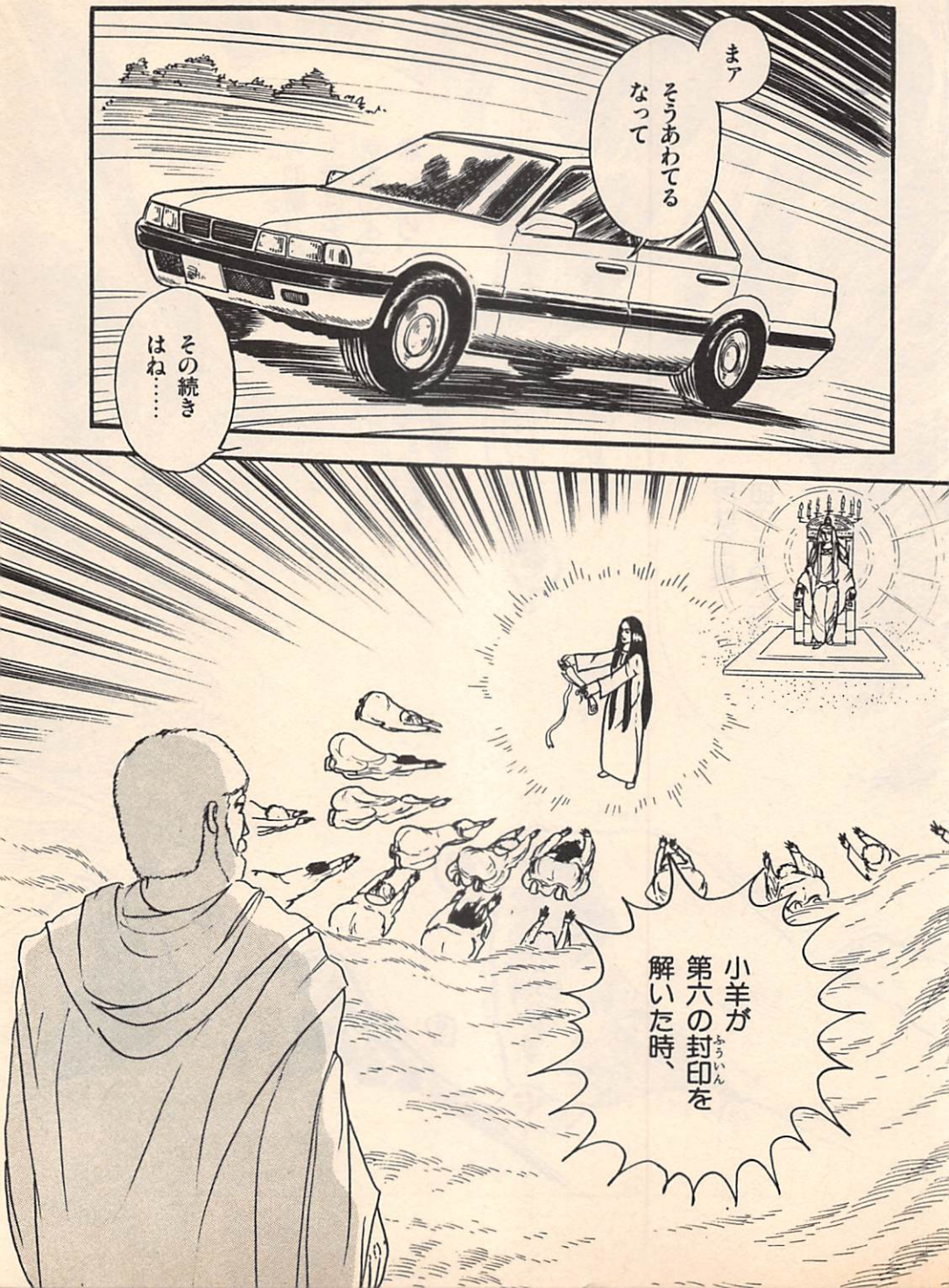
しかも
そのヴァイブレーションに
影響されてか
そばにいる
私達まで
〝感〟が冴えて
くるんだよ

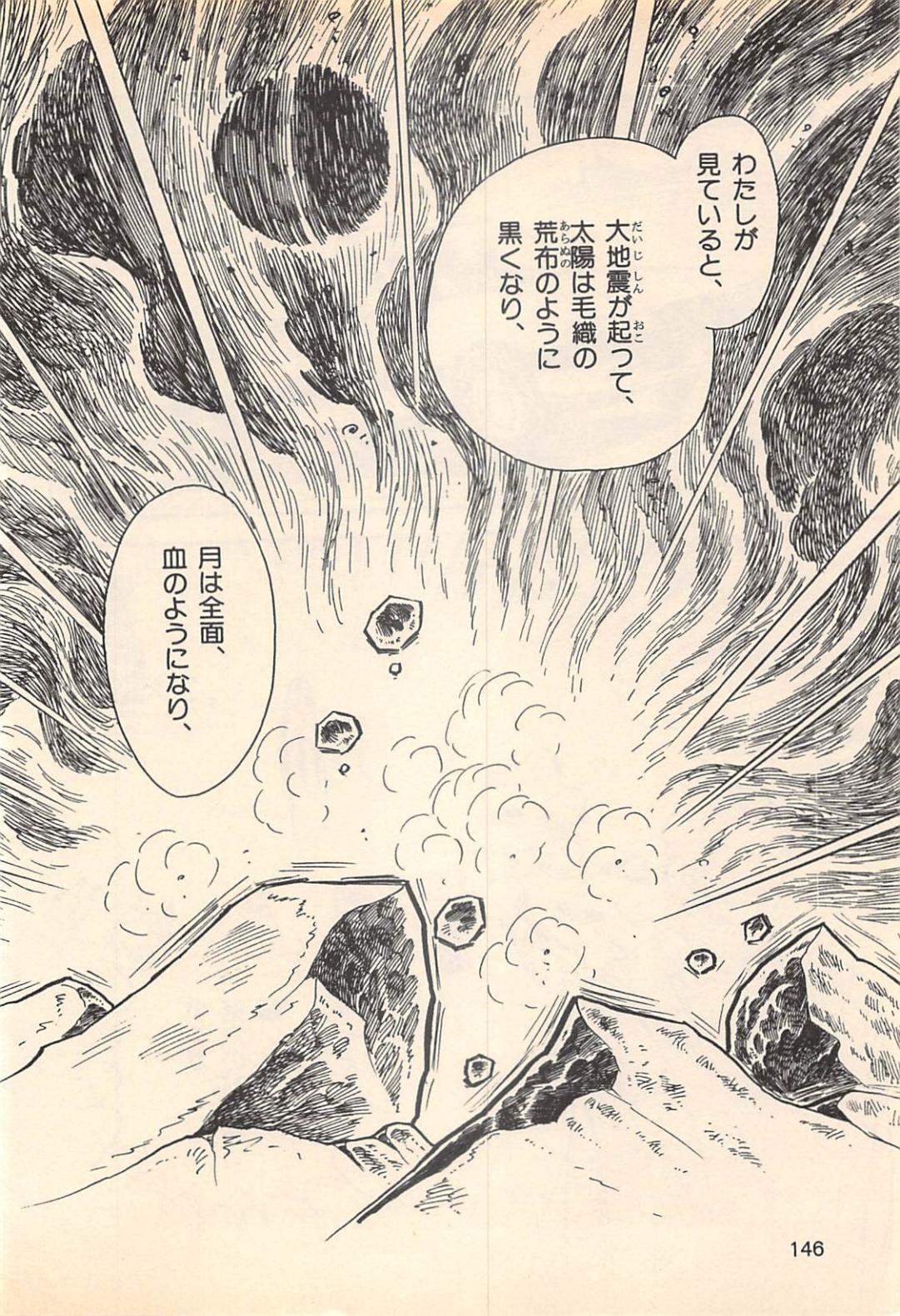
あれは本当に
不思議ですよね
私も昔から
『黙示録』や
ノストラダムスの『諸世紀』
なんかが好きでね
いろいろ
あちこちと
調べていた
わけなんだけど


それらが
いかに無智と
間違った観念で
覆われていたか
よーく
わかったよ
——で
今回はその
第五の封印までで
終わったんですか？
いや
ちゃんと
第七の封印と
その後の
第七のラッパの
謎解きまでは
終わったんだ


後半になるともう世界史の講義みたいだったね
ええ

『黙示録』があそこまで年代順に預言されていたなんて
本当に驚きですよね
そんな二人だけで勝手に盛り上がっていないで早く続きを教えてくださいよ


まァ
そうあわてる
なって
その続き
はね……
小羊が
第六の封印を
解いた時、


わたしが
見ていると、
大地震が起って、
太陽は毛織の
荒布のように
黒くなり、
月は全面、
血のようになり、

天の星は、
いちじくの
まだ青い実が
大風に揺られて
振り落される
ように
地に落ちた。
天は巻物が
巻かれるように
消えていき、
すべての
山と島とは
その場所から
移されてしまった。

地の王たち、
高官、千卒長、
富める者、勇者、
奴隷、自由人らはみな、
ほら穴や
山の岩かげに、
身をかくした。
そして、
山と岩とに
むかって言った。
さあ、
われわれをおおって、
御座にいますかたの
御顔と小羊の怒りとから、
かくまってくれ。

御怒りの
大いなる日が、
すでにきたのだ。
だれが、その前に
立つことができようか。
これは
火山の噴火の
描写だね

なるほど
そうか！
言われてみれば
全く
そのとおりですね
うん
確かに
大噴火の状態に
そっくりです
マンジュシュリー大師
この時期に
大噴火の
記録がないか
調べてくれ
はい

聖書
えーと
ヨハネ以後だと
一一六九年のイタリアの
エトナ火山の大噴火で
一万五千人(二万人という
説もある)が
犠牲になっていますね

その後も
一六三一年　イタリアの
ベスビオ火山の噴火で
死者一万八千人

一六六九年には
再びエトナ火山の
噴火で
死者一万人

現代に近くなっても
一九〇二年に
西インド諸島で
首都(サンピエール市)が
全滅したという
モンプレー火山の
噴火があります

このときの
犠牲者は
なんと
二万九千人！
つい
三年前
（一九八五年）
には
コロンビアの
ネバドデルドリス火山
の噴火で
二万二千人の
犠牲者が
出ています
——いつの
時代になっても
神の怒りの
前には
人間は無力だ
ということだな

え
じゃあ
噴火は
神の怒りだと!?
そうだ!!

※五大元素……宇宙や私達の身体を構成している要素。「地・水・火・風・空」で表わされる。

それが
火山の噴火(ふんか)
という現象となって
現われるわけ
ですね
――私が
富士山に
道場を
建てたのも
周囲の
ヴァイブレーションを
良くすることで

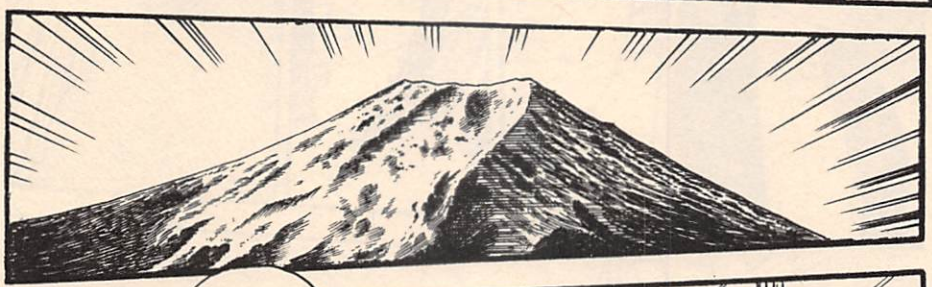
数年前から
予知していた
〝富士山噴火〟を
防ぐためだった……

※水中エアー・タイト・サマディ……完全密閉された箱の中に入り、長時間の呼吸停止を示すことで、解脱の状態を科学的に証明したオウムのイベント。これには、富士山の噴火を静めるという目的もあった。

※『マハーヤーナ』……オウムで出版している月刊書籍。オウムの教義、尊師の説かれた真理の法を掲載している。

——ええ
ところが……だ！
よーく見てごらん

もう
十二月だというのに
山の上の方の
地肌(じはだ)が見える
よね



二、三日前には
頂上付近は
雲に覆われて
ちゃんと雪が
降っていたにも
かかわらず…だ！

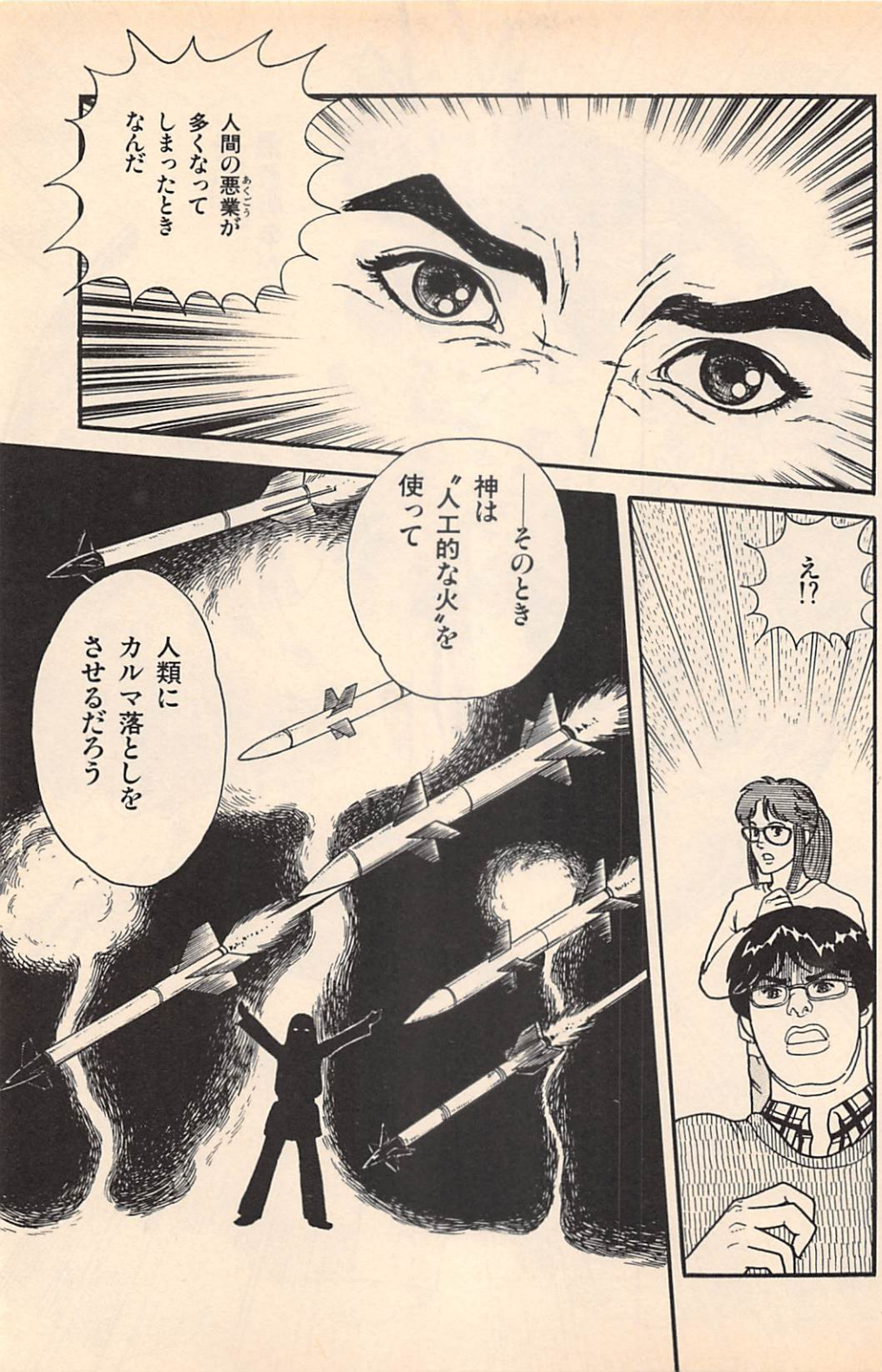
え!!
ということは
そうだ!!
地熱が雪を溶かしているんだね

つまり
富士山はもう
活動を再開
してしまっている
んだよ!!

!!
この先
功徳よりも
悪業が勝ち
続ける限り

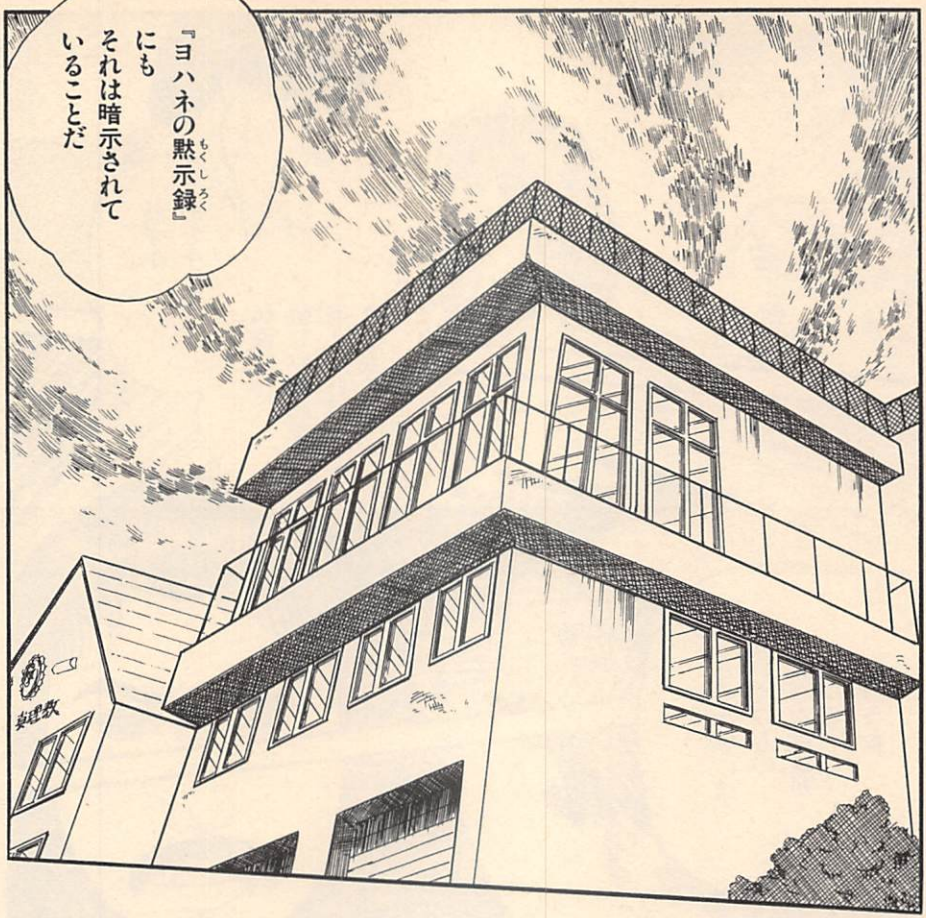
〝怒(いか)りの日〟が
来るのは
そう遠いことでは
ないだろうね！
田中不動産

だけどね
松葉さん
はい
私が本当に
怖いのは
このような
自然の噴火で
カルマを落とし
切れなくなるほど

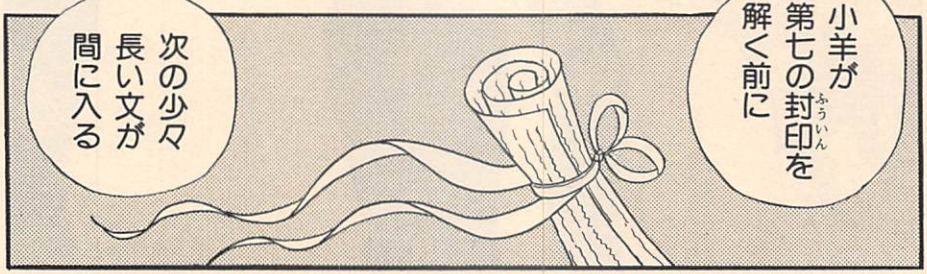

人間の悪業が
多くなって
しまったとき
なんだ
――そのとき
神は
〝人工的な火〟を
使って
人類に
カルマ落としを
させるだろう
え!?

それが
最終戦争(ハルマゲドン)だ!!

わずか
あと十二年で
私達は
新しい世紀を
迎えるわけだ
けども
その途中には
いくつもの
大きな試練が
待ち受けている
だろうね



第6章　シャクティーパット――額に押された神の印



この後、
わたしは
四人の御使が
地の四すみに
立っているのを
見た。

彼らは
地の四方の風を
ひき止めて、
地にも
海にも
すべての木にも、
吹きつけない
ように
していた。

また、
もうひとりの
御使(みつかい)が、
生ける
神の印(いん)を持って、
日の出る方から
上(のぼ)って来るのを
見た。

彼は
地と海とを
そこなう
権威を
授かっている
四人の御使に
むかって、
大声で
叫んで言った。
わたしたちの
神の僕らの額に、
わたしたちが
印をおしてしまう
までは、
地と海と
木とを
そこなっては
ならない。

わたしは
印をおされた
者の数を
聞いたが、
イスラエルの
子らの
すべての部族のうち、
印をおされた者は
十四万四千人で
あった。

ユダの部族のうち、
一万二千人が
印をおされ、
ルベンの部族のうち、
一万二千人、
ガドの部族のうち、
一万二千人、
アセルの部族のうち、
一万二千人、
ナフタリの部族のうち、
一万二千人、

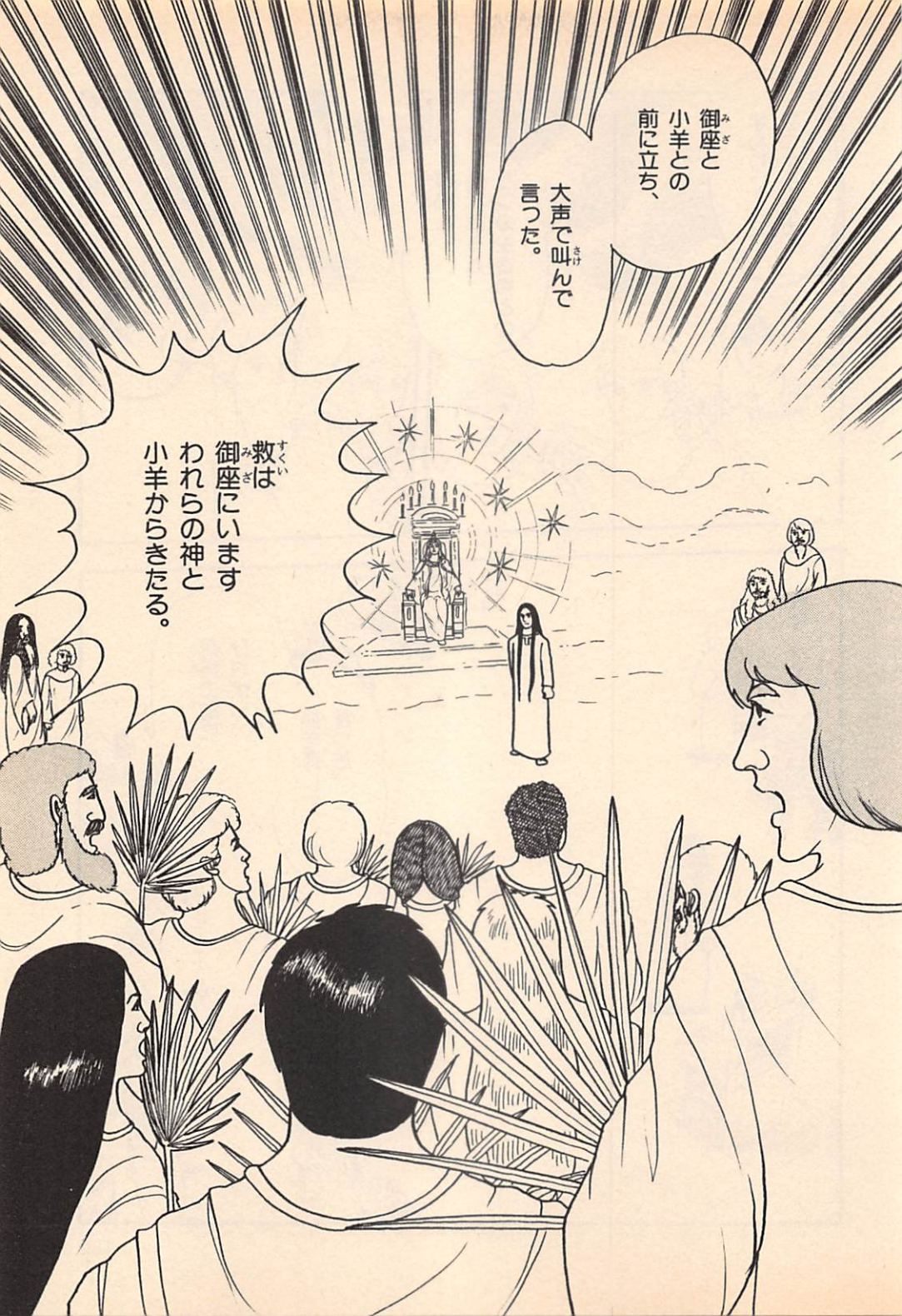
マナセの部族のうち、
一万二千人、
シメオンの部族のうち、
一万二千人、

レビの部族のうち、
一万二千人、
イサカルの部族のうち、
一万二千人、
ゼブルンの部族のうち、
一万二千人、

ヨセフの部族のうち、
一万二千人、

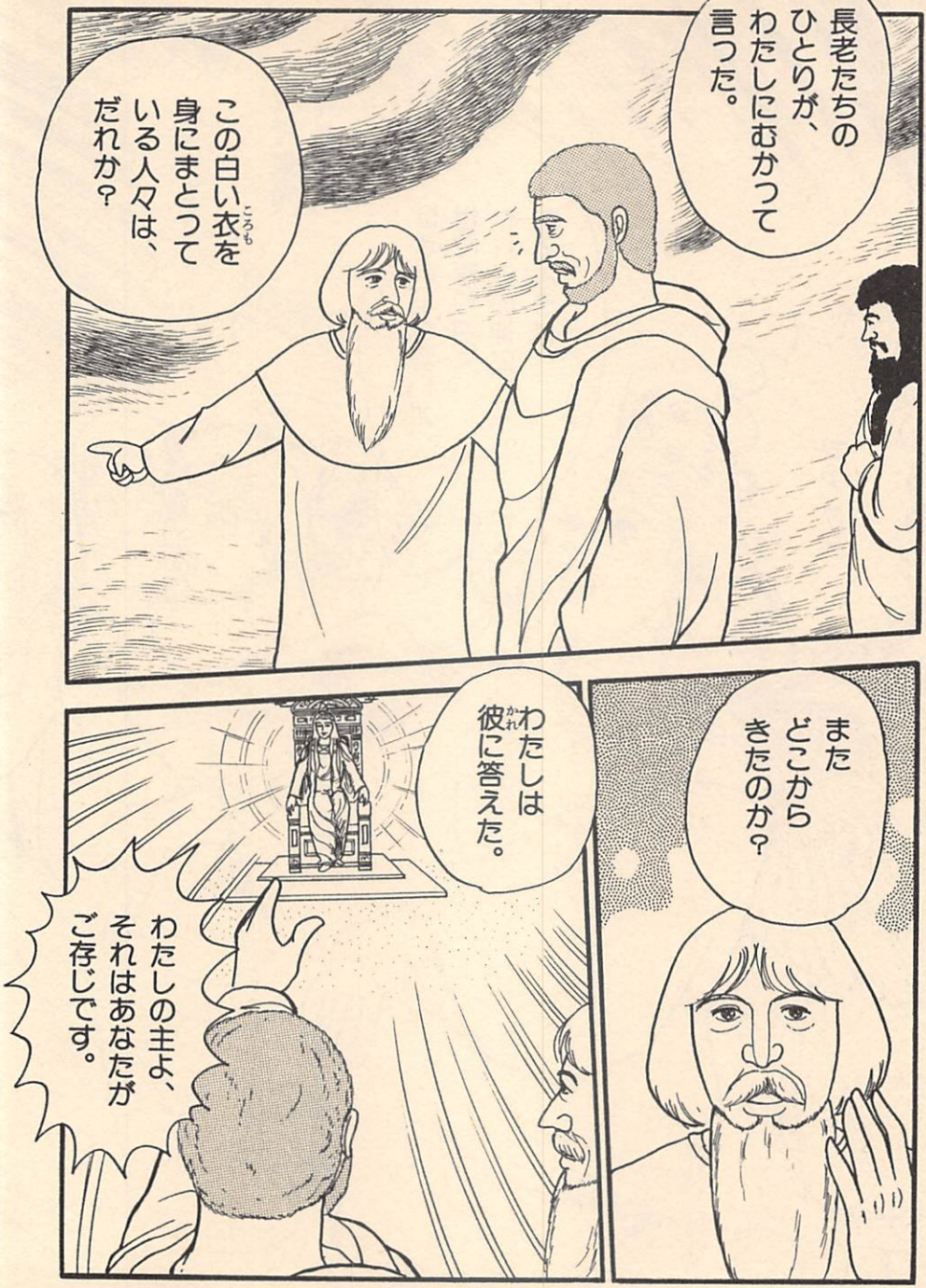
ベニヤミンの部族のうち、
一万二千人が印をおされた。

その後、
わたしが
見ていると、
見よ、
あらゆる国民、
部族、民族、
国語のうちから、
数えきれない
ほどの
大ぜいの群衆が、
白い衣を
身にまとい、
しゅろの枝を
手に持って、


御座と
小羊との
前に立ち、
大声で叫んで
言った。
救は
御座にいます
われらの神と
小羊からきたる。

御使たちは
みな、
御座と
長老たちと
四つの生き物との
まわりに
立っていたが、
御座の前に
ひれ伏し、
神を拝して
言った。

アァメン!!
さんび、栄光、
知恵(ちえ)、感謝、
ほまれ、力、勢いが、
世々限(よよ)りなく、
われらの神に
あるように、
アァメン


長老たちの
ひとりが、
わたしにむかって
言った。
この白い衣を
身にまとって
いる人々は、
だれか？
また
どこから
きたのか？
わたしは
彼に答えた。
わたしの主よ、
それはあなたが
ご存じです。

すると、彼はわたしに言った。
彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、
その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのである。

それだから
彼らは、
神の御座の
前におり、
昼も夜も
その聖所で
神に仕えているの
である。
御座に
いますかたは、
彼らの上に
幕屋を張って
共に住まわ
れるであろう。

彼らは、もはや
飢えることがなく、
かわくこともない。
太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。

御座の
正面にいます
小羊は
彼らの
牧者となって、
いのちの水の泉に
導いて下さるで
あろう。
また
神は、
ヒュウウウウ---

※ダントラ・ヴァジラヤーナ……最も早く、高い成就に至ることができる修行法。

え!?
ここは
オウムについて
書かれている
んですか？
そうだよ
タントラの中に
〝四方からの風〟
というのが
あるんだ

〝四方からの風〟!?

すなわち
シャンバラの宗教であり
修行法(しゅぎょうほう)であるタントラの世界では
四方から風(ふ)が吹き込(こ)んできて
十字金剛(じゅうじこんごう)が現われ
世界の創造が始まるとされている

この風は
シヴァ神の
象徴(しょうちょう)であり
何かを
変化させるという
働きをするんだ

その風を
引き止めて
変化が
起きないように
四人の
御使(みつかい)が
していたん
ですね
そうだね
〝地と海と木とを
そこなう〟という
滅亡(めつぼう)への
第一歩を
〝神の僕(しもべ)の額(ひたい)に
印(いん)を押(お)してしまう
まで〟

延期して
おかなければ
ならない
――と
言うんだよ
〝額に印を押す〟
といったら
まるで
シャクティーパット
じゃないですか!!

そうなんだよ
〝白き衣(ころも)〟は
オウムの
弟子(シッシャ)たちの
制服(ユニホーム)でも
あるしね
え〜と
そのあと先生が
説明されたことを
簡単に言いますと……
〝衣(ころも)を小羊の
血で洗い
それを白くした〟
——この
小羊というのは

他の人々のために
犠牲となる
救済者の
象徴である
そして
衣が白いと
いうことは
真の宗教心を
培っていると
いう意味である

※イニシエーション……秘儀伝授。グルが弟子に教え、霊的なエネルギー、経験を授ける儀式。

※血のイニシエーション……グルの血液によって、弟子のカルマを浄化し、「グルの子供」となる儀式。非常に高度なため、一般的には赤ワインやお茶で代用される。

※成就・解脱……人間が生死を超え、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜の存在になることで、修行における一つの完成を表わす。

これは
言うまでもなく
ツァンダリー
(瞑想法の一種)が
もたらす
不死の甘露に
他ならない

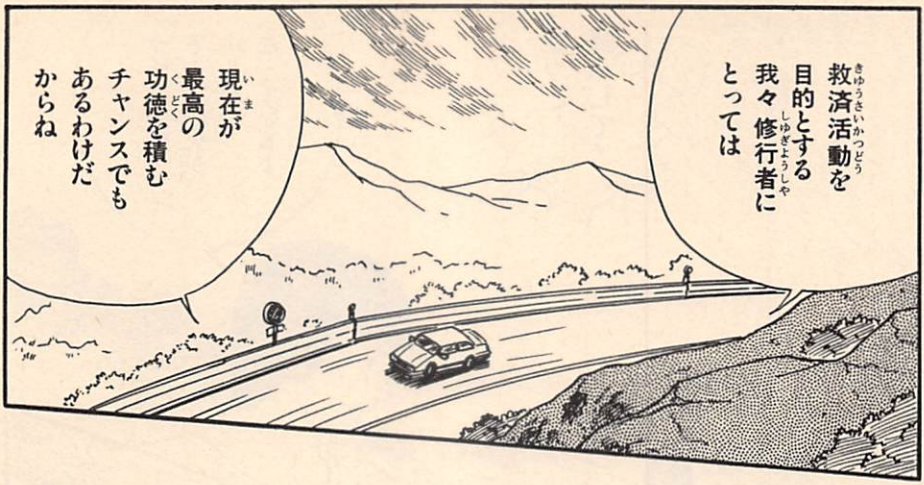
この第七章の
文章は
挿入(そうにゅう)の形に
なっているから
今までの
封印(ふういん)のように
時代順の出来事と
考えなくても
いいらしいんだ
――だけど
こりゃあちょっと
ヤバイ内容だな
!!
え
どうして
ですか?

だってさ
この部分が
本当に
オウムに関しての
記述だとしたら
もうすぐ
〝四方からの風〟が
吹き荒れるって
ことじゃないですか!!

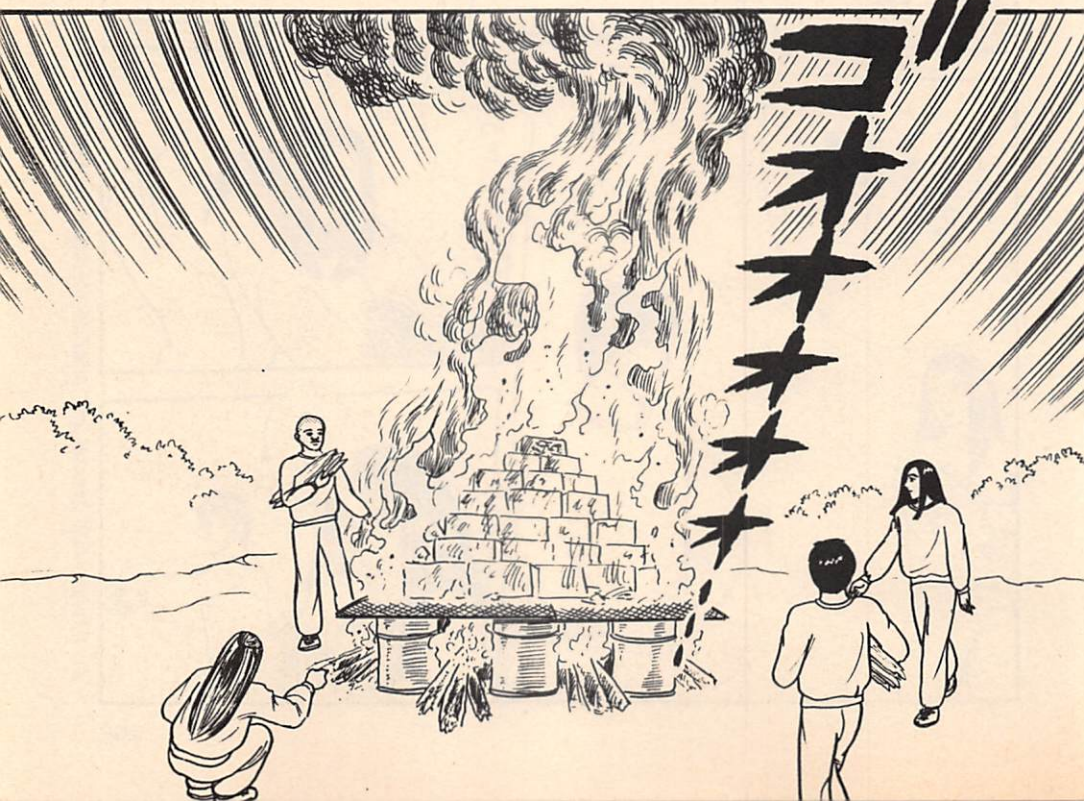
先生の
シャクティーパットが
八月で終わって
しまっている
からかい？
ええ
でも
〝印〟をおされた者は
十四万四千人〟と
あるんだから
まだ大丈夫
なんじゃないですか
今はケイマ大師が
シャクティーパットを
引き継がれて
いますよね

うん
おそらく
何らかの事情で
オウムが
シャクティーパットを
終了せざるを
えなくなったとき
世界は
一気に
破局へと
向かうんじゃ
ないかな

それなら
あとまだ少しは
時間が
ありそうですね
ああ
そうあって
ほしいよね
だけど本当に
とんでも
ない時代に
生まれて
きちゃったな
いやあ
最終戦争(ハルマゲドン)
なんていう
めったにない
体験を
することが
できるんだから
それだけ
功徳(くどく)がある
のかもしれないよ



第7章　恐怖の神々の時代――避けられぬ滅亡の日



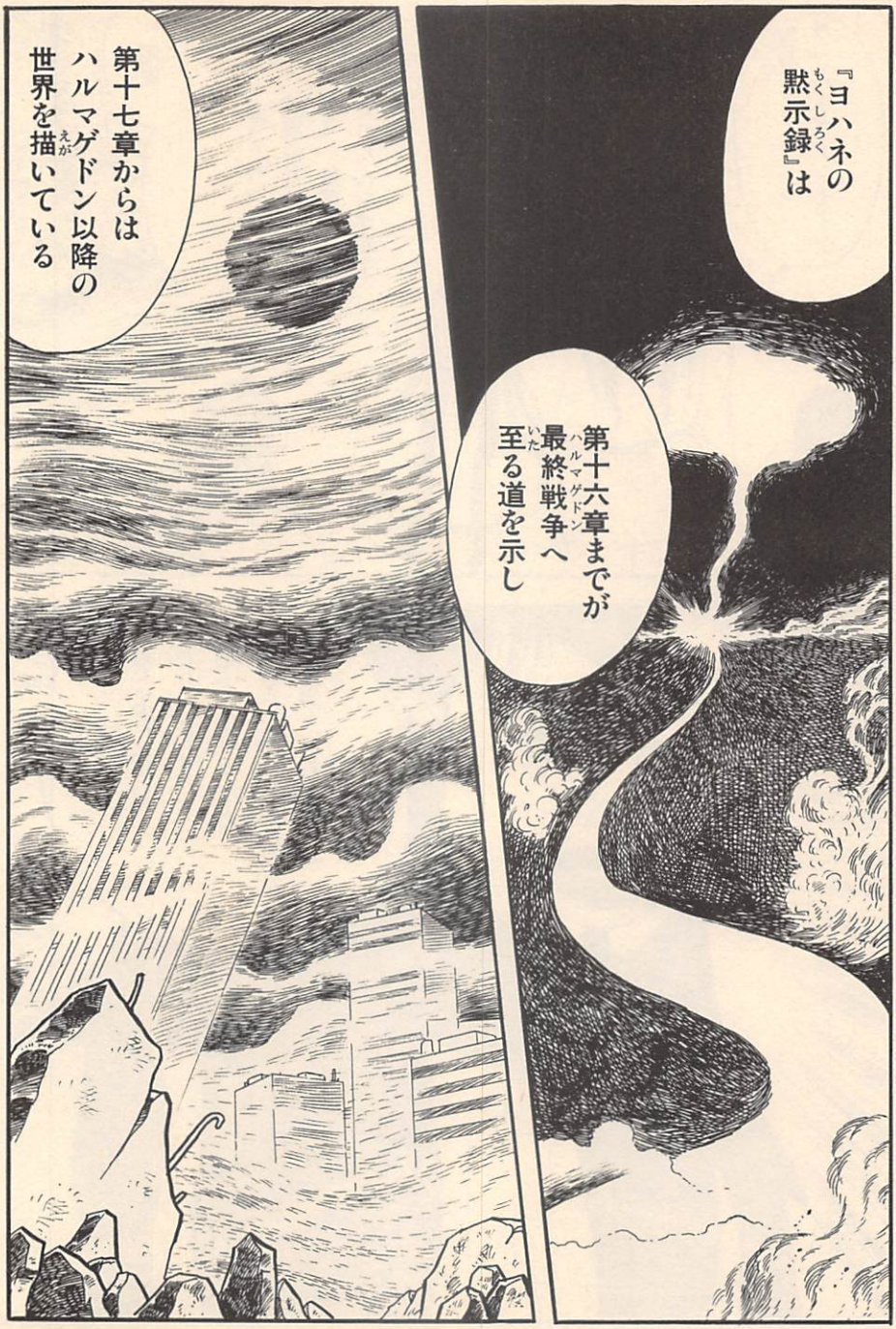
※護摩法……供物を火元素に還元して、神々を供養する儀式のこと。

う〜ん
そうだねェ
大きなたき火を
しているなァ
……くらいにしか
見えないだろうね
言えてますね！
オウムは
他の宗教と違って
外見や体裁は
全く
気にしません
からね
ゴオオオオ！
そう
問題なのは
見た目ではなくて
心だからね

ご利益や
見返りなどを
考えずに
ただ純粋に
黙々と供養する
ひたすら
供養する
これにオウムは
徹しているからね
アングリ
マーラ！
どうだ
護摩の
様子は？
ええ
順調に
いってます

先生
『黙示録』の
解読の方は
もう一段落
されたんですか？
おお
ウッパラヴァンナーか

あと少しだね
とりあえず
第十六章までを
一冊の本にしようかと
考えているからね


『ヨハネの黙示録』は
第十六章までが最終戦争へ至る道を示し
第十七章からはハルマゲドン以降の世界を描いている

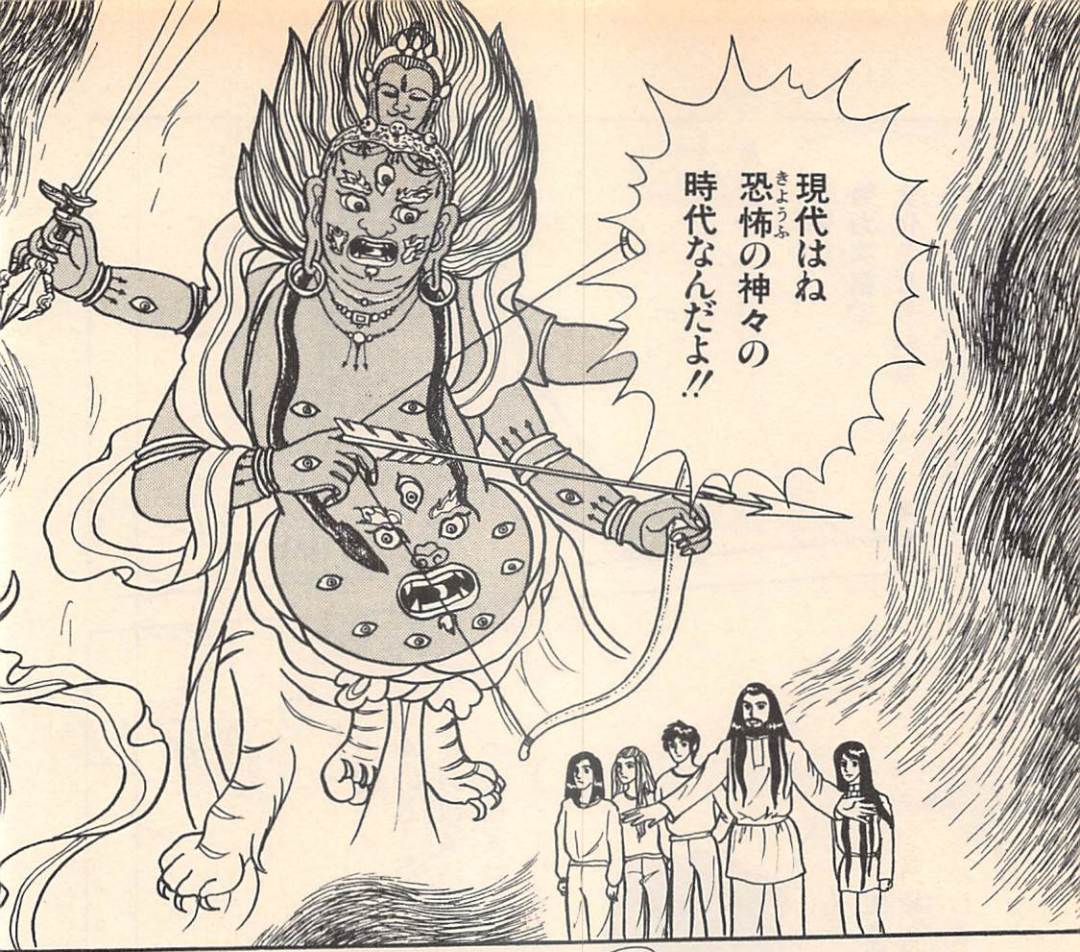
※凡夫……本来は仏教用語で、「煩悩に捕らわれて迷いから抜け出られない衆生」の意味。
外道……「仏教以外の教え。また、その教えを奉ずる者」「真理に背く説。邪説」の意味。

あの……
それほど運命が決まっているのだとしたら
〝救済〟は本当に可能なんでしょうか？
マチク大師
私がこう言ったことがあるだろう
まず、ハルマゲドンは回避できない!!

しかし
オウムが頑張って
多くの成就者を
出すことができれば
この被害を
少なくすることが
できる
ハルマゲドンで
死ぬ人々を
世界人口の
四分の一に
食い止めることが
できる
——とね

そして
残りの
四分の三の中の
人口の中の
どれだけが
生き残れるかは
オウムの
救済活動
次第だと
私は
私に与えられた
この使命に
命を懸けて
いるんだよ!!

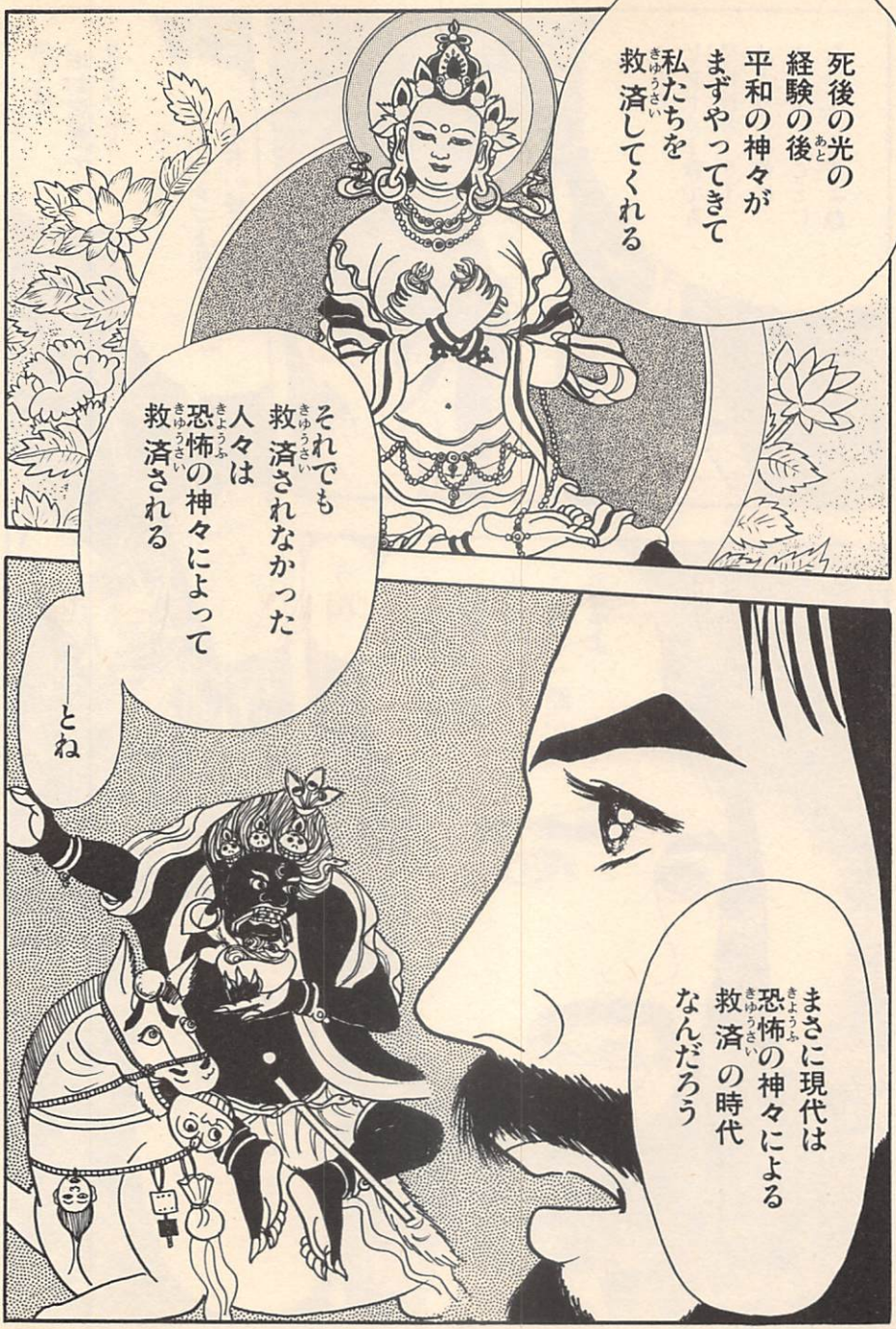
それは
未来は
努力次第で
変化させられる
ということでしょうか?
そうだ
ただ
今のところ
私の救済活動が
完全に遅れて
しまっているから
もう
生き残れる人の数は
四分の三を切って
しまっているけどね


現代はね
恐怖の神々の
時代なんだよ!!

恐怖の神々!?

神には
平和の神々と
恐怖の神々と
いらっしゃる
わけだけど

例えば
『旧約聖書』で
見てみると
モーゼの
「出エジプト記」までが
平和の神々の時代で
それ以降は
恐怖の神々の
時代になっているね
たしか
ヒンドゥー教でも
恐怖神カーリー・
ユーガの時代に
入っていることに
なっていますよね
うん
チベット仏教の
『死者の書』の
中にもね
こんな一節が
あるよ


死後の光の
経験の後
平和の神々が
まずやってきて
私たちを
救済してくれる
それでも
救済されなかった
人々は
恐怖の神々によって
救済される
——とね
まさに現代は
恐怖の神々による
救済の時代
なんだろう

この地球の
出来事というものは
すべてカルマの法則に
のっとっている
あまりにも
煩悩的になった
この地球人類は
優しい顔をして
法を説くだけでは
救済されないだろうしね
だから
良いことも悪いことも
心が生じさせているんだ
すべて
心の現われ
なんだ!!

もし
人間の悪業が
積もってしまったら
恐怖の神は
カルマの法則を
使って
それを具現化
させて
それを
悟らせようと
するんだね

したがって
神の激しい
怒りの裁きと
言われるものも
実は神の
愛の現われなんだよ

恐怖の神々の
愛の現われ!?
そうだ
そして
一九九五年の選挙で
アメリカ大統領となる人物と
その時点でのソ連の書記長が
ハルマゲドンへと
世界を導いていくだろうね

私の救済計画は
残念なことに
毎年一割くらいずつ
遅れてしまっている
これは私の
前生の優秀な弟子たちが
未だ現世に執着していて
自分が生まれた使命に
気付いていないが
ためである
一刻も早く
この世が幻影で
あることに気付き

私の許に集まるべきである
(その前生の優秀な
弟子たちの一人が
今これを読んでいる
あなたかもしれないのだが……)
もし彼らすべてが集まり
力を合わせたならば
今までの救済の遅れを
取り戻すことができると
私は確信している
早く私の許に来てほしい
そして私の救済活動に
力を貸してほしい
何よりも
彼らの使命が
救済なのだから

ハルマゲドン
滅亡の日
麻原彰晃『ヨハネの黙示録』の封印を解く!!
第七の封印が解かれたあと
七つのラッパが吹き鳴らされる
それは来るべきハルマゲドンの序曲にあった
そしてついに麻原彰晃は
666の秘密
獣の謎に迫る!!
第二巻(全二巻)
近日発売!!

黙示録が示す、滅亡のタイムテーブル

1999年まであとわずか。真実を知り、選択するのはあなただ！

麻原彰晃 滅亡の日 最新刊!!

すべてが今明らかにされる！
獣の数字666、アメリカ・ソ連の趨勢、
ハルマゲドン……

謎の預言書
『ヨハネの黙示録』が語る
近未来図

この本には戦慄の内容が書かれている。したがって、
1. 心臓の弱い者／2. 精神病の気がある者／3. 自律神経失調症の疑いのある者
4. 心の惑いやすい者／5. 現世で楽しく生きたい者は
これを開いてはならない……

滅亡の日——麻原彰晃「黙示録大預言」の秘密のベールを剝ぐ
麻原彰晃著／B6判／定価1800円
ご注文は書店にてお願いいたします。
直接弊社にお申し込みの場合は下記まで（送料300円）。

オウム出版 〒154東京都世田谷区世田谷2－8－17 TEL 03(323)9294 郵便振替 東京2－109325

明くんの僕はこうしてオウムへ入りました!!

このプログラムを
修習すれば
最短三年間で
解脱することが
できるでしょう

プルシャ
ソーマ
アストラル丹
たまて箱
愛のイニシエーション
甘露水

オウムの誇る
数多くの
イニシエーションが
その手助けを
してくれます

また
あなたが
一日三時間でも
十分な睡眠
一度覚えたら
忘れない記憶力

深い推理力を持つ
明晰な頭脳
強力な集中力と
土壇場にも動じない
安定した精神力

さらには
空中浮揚、透視能力
念力、テレパシー、
アストラル・トリップ
といった超能力を
身に付けたい
のでしたら

総合超能力
プログラムを
完備した

シッディ・コースが
いいでしょう

もし
あなたが
現実生活での
幸福を望み

来世で高い世界に
生まれ変わりたいと
思うのでしたら

ポア・コースが
適していると
思います

オウムの修行はあなたに超能力を与え、あなたを高い世界へと導きます!

オウム真理教

◆各道場のご案内
◎富士山総本部　〒418-02 静岡県富士宮市人穴381-1　☎0544(54)1267
◎東京本部　〒156 東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F　☎03(327)8565
◎大阪支部　〒532 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F　☎06(397)1022
◎福岡支部　〒812 福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F　☎092(474)2877
◎名古屋支部　〒460 愛知県名古屋市中区栄4-17-20 葛谷ダイアパレス栄601号　☎052(252)0709
◎札幌支部　〒060 北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 札幌三博ビル201号　☎011(241)4938
◎京都支部　〒600 京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F　☎075(371)3759
◎仙台支部　〒982 宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F　☎022(268)3904
◎高知支部　〒780 高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F　☎0888(84)8286
◎金沢支部　〒920 石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F　☎0762(51)8457
◎広島支部　〒732 広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F　☎082(264)6250

【海外支部】◎ニューヨーク支部　53Crosby St. Main Floor, New York, N.Y. 10012　☎212(431)8789

滅亡の日 1

〈オウム・コミックス〉

1989年4月10日　初版発行
1989年4月25日　第2版発行

定価 800円

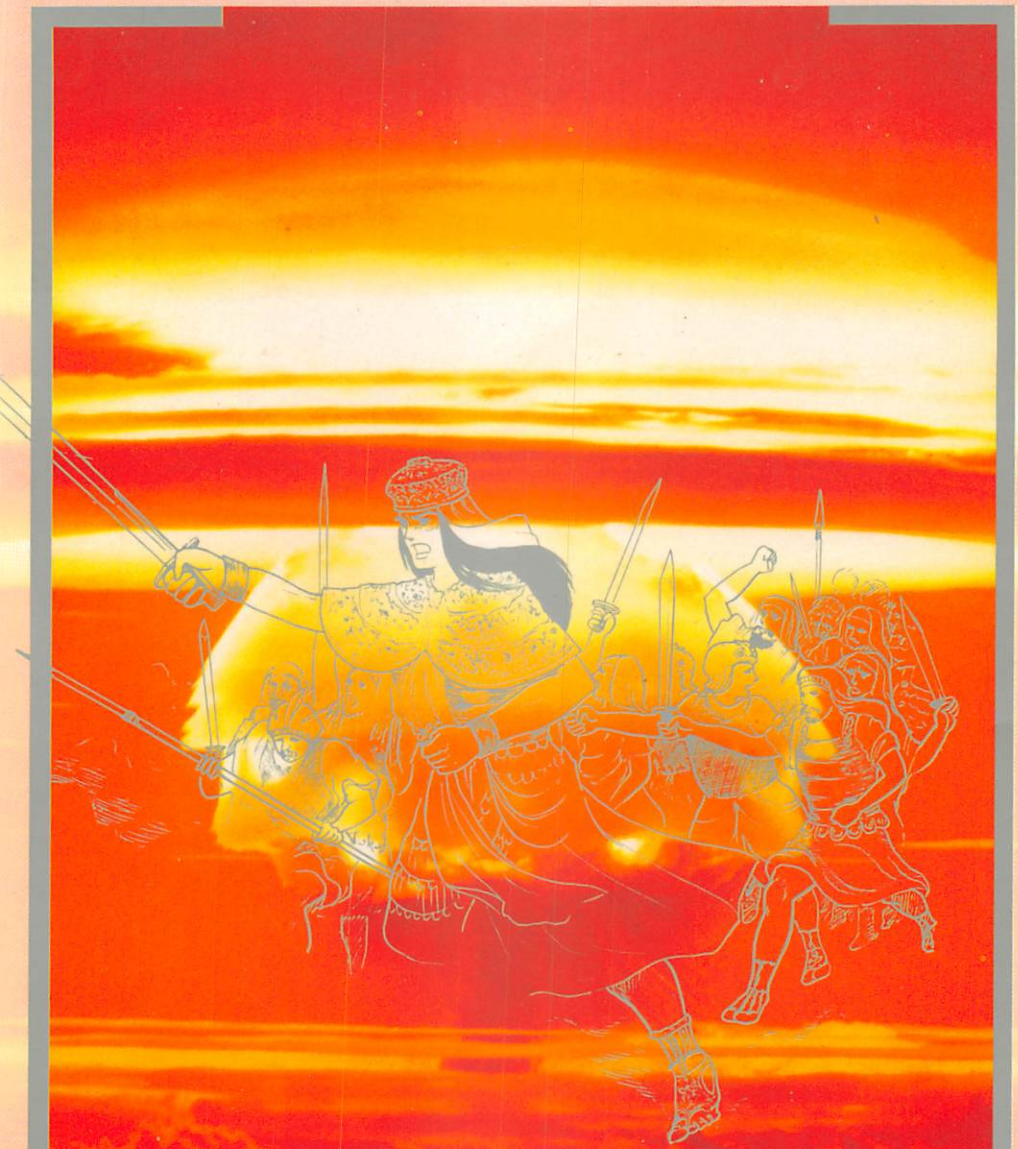
原　作　麻原彰晃
作　画　ダビデの星
発行者　松本知子
　　石井久子
印刷所　凸版印刷株式会社
発行所　株式会社　オウム

東京都世田谷区世田谷2－8－17
郵便番号　154
電　話　03－323－9294
振　替　東京2－109325

乱丁・落丁がありましたらお取り替えいたします。

© Shoko Asahara 1989　ISBN4-900497-70-3 C0079 ¥800E

作画協力　片山美穂子　山本貴子　木下千津　大塚由美子
　　望月美雪　西口佳子子　松本良美
装丁　　マハー・カッサパ



ISBN4-900497-70-3 C0079 ¥8 定価824円(本体800円))円